



地方創生インターンシップ推進に向けた 取組のヒント集 (第2版)



- 本書は、地方創生インターンシップの推進にあたって、インターンシップ推進主体の皆様がどのようにすれば効果的なインターンシップを実施できるかということについて、実際の事例等も踏まえて、インターンシップ実施フローごとにとりまとめたものです。
- なお、地方創生インターンシップの推進にあたっての、自治体と大学等との連携についての取組事例については、「地方創生インターンシップ推進に向けた自治体・大学等の連携事例集」に詳細に掲載しています。

2019年3月
内閣府地方創生推進室

1. はじめに	1
1. 本ヒント集作成の背景と目的	1
2. 地方創生インターンシップとは	2
3. 地域でインターンシップを実施することの意義	3
2. 導入編	9
1. 地方創生インターンシップの現状	11
2. 本ヒント集の想定読者と構成	12
3. よくある課題と実施に当たってのポイント	14
3. 実践編	20
0. 目的・役割分担の決定	21
1. 目的の設定・共有	21
2. 役割分担の明確化	22
I. 受入先の開拓	26
1. 受入先の探索	26
2. 受入先へのアプローチ	30
II. プログラム設計	34
1. 受入プログラムの検討	34
2. 学生への広報・募集	38
3. 企業と学生のマッチング	42
4. 受入手続き	46
III. プログラム運営	50
1. 学生への事前研修	50
2. インターンシップの実施	54
3. 事後研修・評価	58
IV. 継続的な事業運営のための体制	62
1. 異なる主体との連携	62
2. 業務の構築・継承	66
3. 財源の確保	70
実践編のフロー(0～IV)に沿ったモデル事例紹介	73
4. 事例編	81

1-1. 本ヒント集作成の背景と目的

地方創生インターンシップ事業は、東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）在住の地方出身学生等の地方還流や、地方在住学生の定着を促進することを目的に、地方企業のインターンシップの実施等を産官学を挙げて支援するべく実施している取組です。

しかし、地域においてインターンシップに関する知見が不足していることや、受入先となる企業の掘り起し、学生の年次や受入先の業種等に合わせた、インターンシッププログラム設計に係る負担軽減等が今後の事業推進の課題となっています。

道府県を中核とするインターンシップ推進組織が主体的にインターンシップの受入企業の掘り起しや、企業の受入プログラムの整備支援を行うことができるよう、地方創生インターンシップの推進に向けた取組のヒント集を作成いたしました。

みなさまの活動のお役に立てただけですと幸いです。

より教育効果の高いインターンシップの推進に向けて

インターンシップは、学生に新たな成長と発見の機会を提供する就業体験です。より教育効果を高めるために、インターンシップ実施にあたっては、以下の点にご留意をお願いします。

○インターンシップは、就業体験を伴うことが必要です。これを伴わないプログラムについては、インターンシップと称さず、実態に合った別の名称（例：セミナー、企業見学会）を用いる必要があります。

○インターンシップは、大学等の教育の一環として位置付けられるものであることから、学生のインターンシップへの参加状況の把握や学修へのつながり・気づきの確認、事前・事後教育等、大学等に積極的に関与してもらうことが重要です。

○特に、インターンシップを正規の教育課程として位置づける場合には、インターンシップの実施期間については、より教育効果を高める観点から、5日間以上の実習期間(※)を担保することが望まれます。

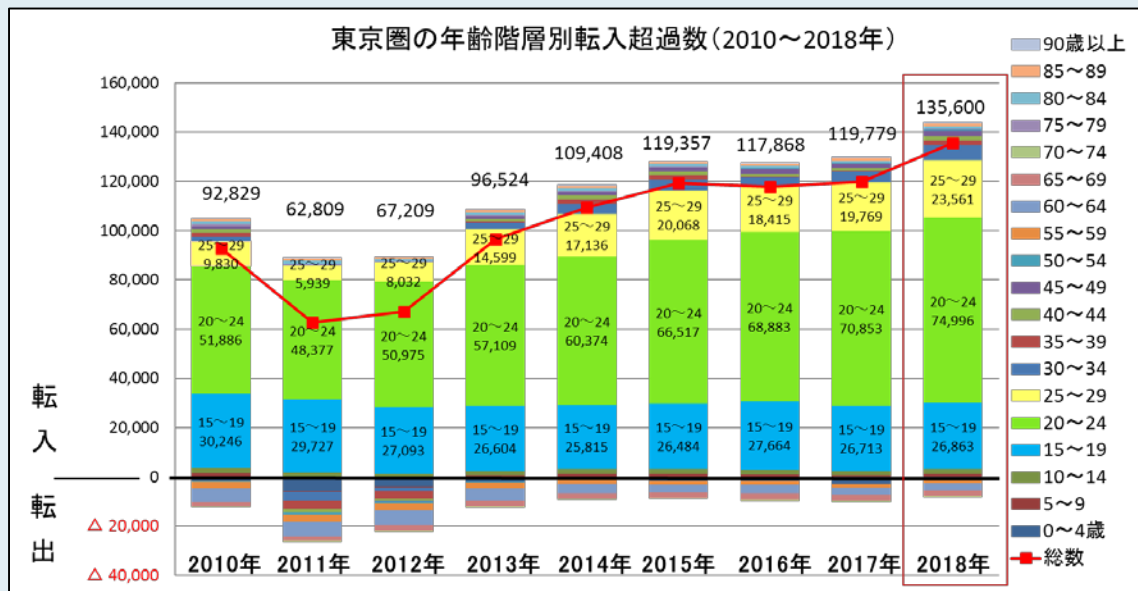
※地域の事情や企業規模等により、連続した5日間の実習が困難な場合は、事前・事後学習との組み合わせや、5日間で複数の企業において実習を行う等の形態も可能であると考えられますが、可能な限り連続した5日間とするなど、一定期間のまとまりにより職業生活を体験することが有益です。

1-2. 地方創生インターンシップとは

東京圏※への転入超過数については、東京一極集中の傾向が続いており、2018年時点で、日本人移動者で見て約13.6万人が転入超過となっている。

この内、就職を控えていると考えられる20～24歳の若年層が約7.5万人となっており、全体のうち5割以上を占めている。

※東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

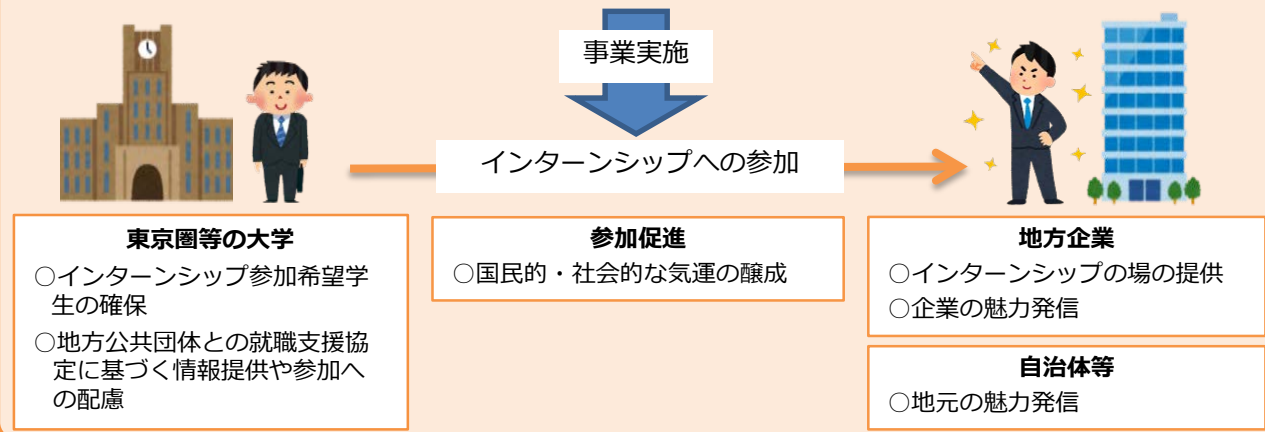


資料出所：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2010年—2018年/日本人移動者）

こうした状況を踏まえ、地方の産官学が連携し地方企業での就業体験の実施を支援する「地方創生インターンシップ」について、全国的な展開を図る。

地方創生インターンシップ事業のイメージ

産官学連携により地域でインターンシップを推進する組織等



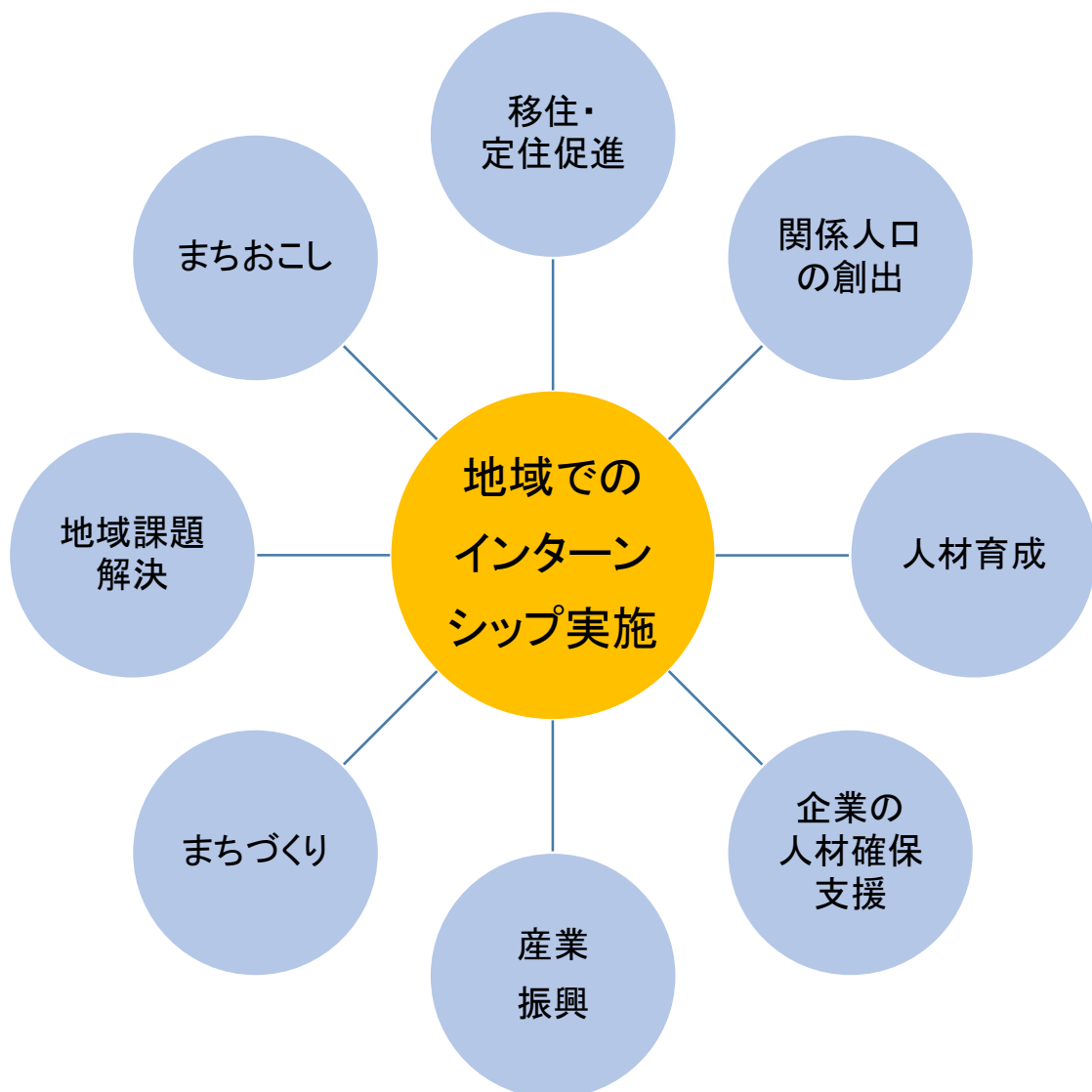
<結果>

- ・学生が地方企業を知り、その魅力に気づく機会が充実
- ・就職先として地方企業が有力な選択肢の一つとなることで、地方への人材還流、地元定着が実現

1-3. 地域でインターンシップを実施することの意義

自治体がインターンシップへ取り組む意義

- ✓ インターンシップは、人材育成の観点だけでなく、地域企業の人材確保支援、産業振興、移住・定住促進、まちづくり、関係人口創出等、自治体の幅広い施策に関連しています。
- ✓ 地域でのインターンシップを実施する意義としては、「インターンを実施すると、地域企業や地域の仕事に対する理解が深まり、地域企業への就職につながる」というUIJターン促進のイメージが強いかもしれませんが、実際には自治体がインターンシップへ関与することで、移住・定住促進に留まらず、「まちおこし」や「地域での企業支援」、「地域住民が抱える課題解決」等の場面へ学生の柔軟な発想や行動力を活用している事例もあります。先進事例では多岐の施策にわたってインターンシップを実施している例が見受けられますので、ぜひご参照ください。（→事例73ページ以降をご参照）



1-3. 地域でインターンシップを実施することの意義

インターンシップの類型

- ✓ 一般に「インターンシップ」と呼ばれているものの中には、「業務体験型」、「課題解決型」、「事業創造型」等様々なタイプがあり、短期間の「仕事理解型」もインターンシップと呼んで実施している企業も多くあります。
- ✓ 次頁以降では、「仕事理解型」も含めてそれぞれのタイプについて、詳細に説明しています。インターンシップに取り組む目的を定め、それぞれのタイプから得られる教育効果や企業、地域のメリット等をしっかりと整理した上で、インターンシップを実施することが重要です。

	①業務体験型	②課題解決型	③事業創造型	④仕事理解型
概要	学生が従業員に教わりながら、企業の通常業務を体験する。	企業や地域が抱える課題に対して、学生自らが調査や提案を行い、課題を解決する。	学生が企業の新規事業や社内変革プロジェクトに参画し、事業創造の取組を体験する。	インターンシップの実施を通じて、学生の地域企業・業界に対する理解を促進する。

学生が一定期間、地域に滞在して活動するインターンシップは、企業の魅力のみならず、地域で暮らすことの魅力についても理解を深めることができる。

**インターンシップを通じて、
地域での働き方や暮らし方を考えるきっかけを提供**

課題解決型インターンシップや事業創造型インターンシップでは、学生が取り組む活動そのものが地域や企業に役立つ可能性がある。

学生の活動が地域や企業の課題解決や変革に貢献

**インターンシップの実施が
人材還流や地域活性化等につながり、
地方創生の推進に役立つ可能性！**

1-3. 地域でインターンシップを実施することの意義

① 業務体験型インターンシップの特徴

インターンシップを通じて目指すこと		学生が従業員に教わりながら、企業の通常業務を体験する。
目安となる期間		5日間～2週間程度
業務体験型 インターン シップがもた らすもの	自治体	地域に滞在しながらインターンシップを行うことで、仕事や企業のみならず、地域での生活イメージについても具体的に認識してもらうことができる。
	大学	学生が実際に業務を体験することで、就職時のミスマッチを防ぐことができ、卒業生の離職率低下につながる。
	受入企業	従業員と学生と一緒に業務へ取り組むことにより、短時間の企業説明会では伝えきれない企業の概要や魅力を、時間をかけて学生へ伝えることができる。 学生への指導は若手社員の成長機会につながる。 自社のサービスや商品等に対して学生が持つイメージを把握することができる。
	学生	実際に業務を体験することで、就業後の具体的なイメージを持つことができる。 受入企業の従業員と一緒に業務を行うことで、コミュニケーション能力等社会人にとって必要な社会人基礎力を身につけることができる。 「地域の企業の中で働く」という大学ではできない体験をすることで、卒業後の働き方や暮らし方に対する気づきを得ることができる。

業務体験型インターンシップの事例は74ページへ

1-3. 地域でインターンシップを実施することの意義

② 課題解決型インターンシップの特徴

インターンシップを通じて目指すこと		企業や地域が抱える課題に対して、学生自らが調査や提案を行い、課題を解決する。
目安となる期間		2週間～1ヶ月程度
課題解決型 インターン シップがもたらすもの	自治体	<p>学生が地域に滞在しながらインターンシップを行うことで、仕事や企業のみならず、地域での生活についても具体的にイメージしてもらうことができる。</p> <p>インターンシップを通じて学生が取り組む活動そのものが地域や地域企業に役立つ可能性がある。</p> <p>地域で充実したインターンシップを体験した学生は、地域のファン(関係人口)になる。</p>
	大学	<p>学生が実際に企業内で活動することで、就職時のミスマッチを防ぐことができ、卒業生の離職率低下につながる。</p> <p>学生が課題解決に向けて考える力や行動力を身につけ、大学での学修にも寄与する。</p> <p>地域や企業が抱える課題に対して、大学での学びを実際に活かす機会となる。</p> <p>キャリア教育や地域企業との交流に力を入れて取り組んでいる大学として、学生や受験生、親世代へアピールできる。</p>
	受入企業	<p>学生ならではの柔軟なアイデアや発想、行動力を活かすことで、企業課題の解決に向けたヒントが得られる可能性がある。</p> <p>意欲的な学生が長期間、社内で活動することにより、従業員のモチベーション向上にもつながりうる。</p> <p>社員と学生と一緒にプロジェクトへ取り組むことにより、短時間の企業説明会では伝えきれない企業の概要や魅力を、時間をかけて学生へ伝えることができる。</p>
	学生	<p>取組を通じて、コミュニケーション能力や課題解決に向けた思考プロセス、行動力等を身につけることができる。</p> <p>「地域の企業の中で働く」という大学ではできない体験をすることで、卒業後の働き方や暮らし方に対する気づきを得ることができる。</p>

課題解決型インターンシップの事例は76ページへ

1-3. 地域でインターンシップを実施することの意義

③ 事業創造型インターンシップの特徴

インターンシップを通じて目指すこと		学生が企業の新規事業や社内変革プロジェクトに参画し、事業創造の取組を体験する。
目安となる期間		2週間～半年程度
事業創造型 インターン シップがもた らすもの	自治体	地域に滞在しながらインターンシップを行うことで、仕事や企業のみならず、地域での生活についても具体的にイメージしてもらうことができる。 インターンシップを通じて学生が挑戦する事業内容そのものが地域おこしにつながり、学生発の商品等としてPRできる。地域で充実したインターンシップを体験した学生は、地域のファン(関係人口)になる。
	大学	学生が実際に企業内で活動することで、就職時のミスマッチを防ぐことができ、卒業生の離職率低下につながる。 課題解決に向けて考える力や行動力を身につけることができ、大学での学習にも寄与する。 起業家精神の醸成等特色ある教育の実現のために、教育の実践の場として、地域企業とタイアップしたインターンシップを活用することができる。 キャリア教育や地域企業との交流に力を入れて取り組んでいる大学として、学生や受験生、親世代へアピールできる。
	受入企業	経営者が挑戦したいと思っているにもかかわらず、人手不足の中で従業員を充てられないために挑戦できないでいる新規事業等について、学生とともにチャレンジすることができる。また新規事業を検討するにあたり、学生ならではのアイデア、行動力が期待できる。 従業員と学生と一緒にプロジェクトへ取り組むことにより、短時間の企業説明会では伝えきれない企業の概要や魅力を、時間をかけて学生へ伝えることができる。
	学生	起業に関するイメージ等をつけることにつながる。 新規事業立ち上げに向けた思考プロセス、行動力等を身につけることができる。 「地域の企業の中で就業体験する」という大学ではできない体験をすることで、卒業後の働き方や暮らし方に対する気づきを得ることができる。

1-3. 地域でインターンシップを実施することの意義

④ 仕事理解型インターンシップの特徴

インターンシップを通じて目指すこと	インターンシップの実施を通じて、学生の地域企業・業界に対する理解を促進する。	
目安となる期間	5日間～2週間程度 (※)業界や地場産業に対する学生の理解を深めるため、1日1社ずつ、数日間に分けて複数社で実施するケースもある。	
仕事理解型 インターン シップがもた らすもの	自治体	地域の魅力的な中小企業の存在や地場産業の特徴・強み等を学生に知ってもらうことができる。
	大学	仕事理解型インターンシップを通して、学生が多様な仕事・企業・業界について理解することができる。幅広い選択肢の中から学生がキャリアを考えるきっかけを作ることができる。
	受入企業	仕事や企業・業界の魅力について学生に知らせることができる。 合同説明会と異なり、1社1社、学生に直接自社の魅力を伝えることができる。 しばらく新卒採用を行っていない企業でも学生との接点ができ、昨今の学生の就業観・職業観を把握することができる。
	学生	1社あたりのインターンシップ実施期間が短いことから、手軽に参加でき、多様な仕事、企業、業界についての理解を深めることができる。 複数の仕事理解型インターンシップへ参加することで、様々な仕事、企業、業界の中から目指すべき社会人の姿や自らのキャリアビジョンを検討することができる。

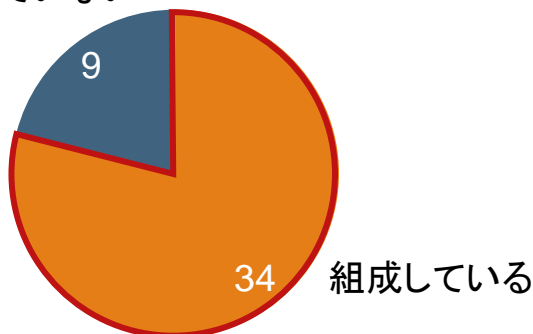
導 入 編

2-1. 地方創生インターンシップの現状(平成29年度の調査による)

地方創生インターンシップの推進に向けて、多くの道府県において、**推進組織を組成**しています。

43道府県におけるインターンシップ推進組織の組成有無

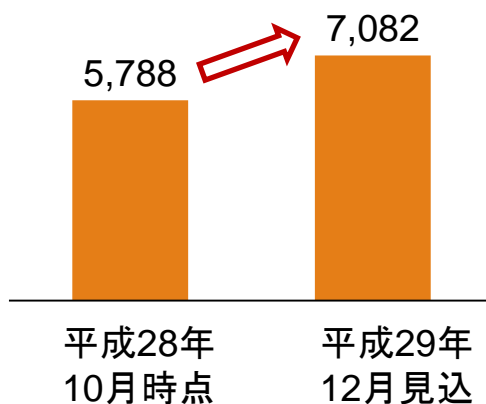
組成していない



出所) 43道府県を対象としたアンケート調査

地方創生インターンシップを**受け入れる企業を増加**させるべく、取組が進められています。

43道府県におけるインターンシップ受入企業数の推移

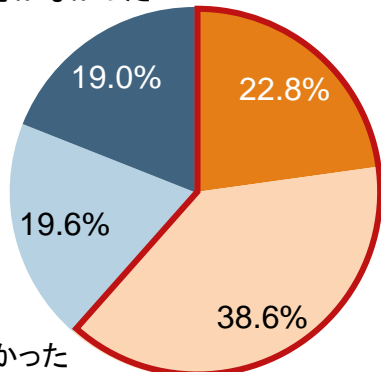


出所) 43道府県を対象としたアンケート調査

地方出身の大学生の**約6割は**地方就職に関心を持っています。

就職活動時期における地方就職への関心有無

全く関心がなかった とても関心があった

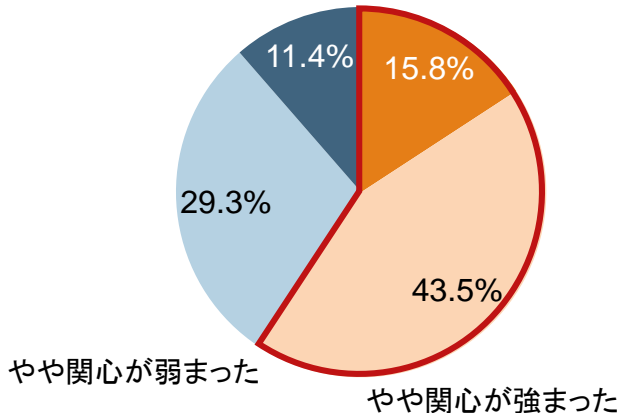


出所) 東京圏の学生を対象としたアンケート調査

地方でのインターンシップに参加経験のある学生の**約6割は**、インターンシップを契機に**地方就職への関心**を高めています。

地方におけるインターンシップ参加による地方就職への関心度合いの変化

とても関心が弱まった とても関心が強まった



出所) 東京圏の学生を対象としたアンケート調査

2-2. 本ヒント集の想定読者と構成

- 本ヒント集では、地方において、地方創生インターンシップを推進する主体(地方自治体、インターンシップ推進組織、地方大学等)のみなさまが、地方創生インターンシップに取り組むにあたって参考となる情報を掲載しております。
- みなさまが地方創生インターンシップに取り組まれる際の課題と工夫を、以下のフローに従って、整理しています。

0 目的 の 決定 ・ 役割	0-1 目的の設定・共有	インターンシップの実施目的を 明確化し、関係者と共有	☞ p.21
	0-2 役割分担の明確化	地域のインターンシップにおいて、 誰が何を担うのかを明確化	☞ p.22~25
I 受入 先 の 開 拓	I-1 受入先の探索	インターンシップの受け入れが 可能な企業を探索	☞ p.26~29
	I-2 受入先へのアプローチ	探索した企業とのコンタクト、受入に ついての承認の取り付け	☞ p.30~33
II プ ロ グ ラ ム 設 計	II-1 受入プログラムの検討	インターンシップの実施目的や 時期、期間、内容等を検討	☞ p.34~37
	II-2 学生への広報・募集	インターンシップ情報の学生への 周知、参加募集	☞ p.38~41
	II-3 企業と学生のマッチング	学生の参加先となる企業を決定	☞ p.42~45
	II-4 受入手続き	学生の受入にあたって、書面の 取り交わしや必要な手続きを実施	☞ p.46~49
III プ ロ グ ラ ム 運 営	III-1 学生への事前研修	インターンシップに参加する学生に 対して、事前に参加目的を確認	☞ p.50~53
	III-2 インターンシップの実施	インターンシッププログラムの実施、 現場のフォロー	☞ p.54~57
	III-3 事後研修・評価	インターンシップ実施後の振り返りと フィードバック	☞ p.58~61
IV の 継 続 的 な 事 業 運 営 の た め の 体 制	IV-1 異なる主体との連携	複数の組織による各々の得意分野を 生かした連携 ※別冊の事例集もご参照ください。	☞ p.62~65
	IV-2 業務の構築・継承	組織内の活動ノウハウを可視化、 中核となる人材の確保	☞ p.66~69
	IV-3 財源の確保	組織の活動を円滑に進めるために 必要な財源の確保	☞ p.70~72

- 本ヒント集は、フローに沿って、インターンシップ実施の課題・工夫が見開きで理解できるように構成しています。
- 見開きの左側のページには、「この観点のポイント」として、インターンシップに取り組む観点毎に必要な方策を簡潔にまとめています。また、「よくある課題」として、取組を進める上での悩みや課題について整理し、加えて、解決するためのポイントを、その下に書いています。
- 右ページには、解決するためのポイントの具体的な説明や事例を、図示・例示し、簡潔に解説を加えています。

見開き仕様



取り扱うテーマとポイント

目的・役割分担の決定 → 受入先の開拓 → プログラム設計 → プログラム運営 → 継続的な事業運営のための評判

観点Ⅰ 受入先の開拓

この観点のポイント

【観点Ⅰ-1:受入先の探索】

- ・ 地域内において、インターンシップ受入可能な企業を探索します

【観点Ⅰ-2:受入先へのアプローチ】

- ・ 探索した企業とコンタクトを取り、受入について承認をもらいます

観点Ⅰ-1：受入先の探索

よくある課題

企業にとって「どんないいことがあるのか」が伝わらない

→ポイント①

企業は、何を依頼されるのか分らず警戒してしまう

→ポイント②

学生が関心を持っている企業を受入先に追加したい

→ポイント③

実施にあたってのポイント

ポイント① 受入側にとってのメリットを提示(→p.27)

⇒ 受入によるメリットの理解が、取組参加への第一歩

ポイント② 受入企業要件や支援内容を設定(→p.28)

⇒ 何が求められているかを理解できれば受入企業も安心

ポイント③ 学生ニーズに基づき受入企業を探索(→p.29)

⇒ 「学生の思い」が企業の受入意欲を刺激

ポイント① 受入側にとってのメリットを提示

受入先企業の実感したメリットを示すことや、受入によって期待される幅広い効果を示すことが、参加企業の理解醸成につながります。

事例 静岡県インターンシップ導入の手引き(抜粋)

インターンシップを実施する中小企業の **メリットベスト5**

- ベスト1 70%** 指導をした若手を中心に、社員の成長を実感します。
- ベスト2 60%** 採用につながっています。インターンシップに参加して、入社した学生がいます。
- ベスト3 40%** ミスマッチが少なくなり、採用率が高まりました。弊社の求める条件に近い学生さんに応募してもらえています。
- ベスト3 40%** インターンシップの準備をすることで「自社の良さ」、「仕事の意義」、「日常業務の手順」などを見直す機会になります。
- ベスト5 30%** フレッシュな学生の意見や視点にハッとさせられます。

出所)「始めようインターンシップ インターンシップ導入の手引き(静岡県)より抜粋 (http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-130/documents/internship.pdf)

企業の担当者 そんなにメリットがあるのか！我が社も受入をはじめよう！！

事例 大学コンソーシアム大阪 期待できる効果(抜粋)

- メリット1:人材育成と社会貢献の両面で効果的です
- メリット2:社内の活性化につながります
- メリット3:新たな視点や感性に触れることができます
- メリット4:大学との連携強化が期待できます
- メリット5:業界のPRや魅力発信に有効です

出所)「大学コンソーシアム大阪」webサイトより抜粋 (http://www.consortium-osaka.gr.jp/general/intern/)

「よくある課題」の概要と詳細な説明

「よくある課題」に対応するための「ポイント」を整理

右ページ以降で、「ポイント」の詳細を図示・例示しながら解説


2-3. よくある課題と実施にあたってのポイント

よくある課題

実施にあたってのポイント

0 目的・役割分担の決定

0-1 目的の設定・共有




企業や担当者によって「インターンシップ」のイメージが様々であり、地域内でイメージが共有できていない

インターンシップの目的を明確化

→p.21

インターンシップの目的が曖昧であるため、企業の協力を得ることが難しい

0-2 役割分担の明確化



インターンシップに取り組みたいが、人手不足で取り組むことができない


コーディネーターの発掘・有効活用

→p.22

専任担当者を置きたいが、地域内で適当な団体・人材が見つからない

I 受入先の開拓

I-1 受入先の探索



企業にとって「どんないいことがあるのか」が伝わらない

受入側にとってのメリットを提示

→p.27

企業は、何を依頼されるのか警戒してしまう

受入企業要件や支援内容を設定


→p.28

学生が関心を持っている企業を受入先に追加したい

学生ニーズに基づき受入企業を探索

→p.29

I-2 受入先へのアプローチ



企業の負荷感が強く受入に至らない

受入企業の負担感を軽減

→p.31

企業の現場の従業員の理解・協力が必要だ…

企業での受入イメージの沸くPR

→p.32


夏休みに受け入れるためには、早く企業のリストアップをしたい

「(前年度末)事前受付」の工夫

→p.33

II プログラム設計

II-1 受入プログラムの検討



学生に何をさせれば良いか困っている企業が多い…

企業向けセミナーの実施

→p.35

プログラムを効果の高いものにした

目的の明確化


→p.36

個性的なインターンシッププログラムの事例を知りたい

実践型のインターンシップ

→p.37

II-2 学生への広報・募集



どんな情報を発信
すればいいんだ…

プログラムを具体的に提示

→p.39

ウェブサイトは
どう作ろうか…

検索しやすいページの構築


→p.40

東京圏の学生に
アプローチしたい

地元出身の学生の把握

→p.41

II-3 企業と学生のマッチング



マッチングの
やり方がわからない…

複数の方法から選択

→p.43

面接への参加が
東京圏の学生の
負担になっている…

テレビ電話やサテライト会場を活用


→p.44

マッチングできない
学生が出てしまった…

複数の希望を登録

→p.45

II-4 受入手続き



どんな書類が必要だろうか

必要な書面のひな型を用意

→p.47

学生に何を準備させれば良いのだろう

学生への注意事項の伝達

→p.48


学生がインターンシップ中に事故を起こしたらどうしよう…

学生への保険加入を案内

→p.49

III プログラム運営

III-1 学生への事前研修



学生の意識やモチベーションに差が生じているらしい

目的意識の啓発

→p.51

説明や思いが学生に伝わっているのだろうか

先輩体験談の発表


→p.52

学生が企業で失礼をしないか不安

ビジネスマナー研修の実施

→p.53

III-2 インターンシップの実施



学生と企業が適切なコミュニケーションを取れているのか

日誌の導入

→p.55

現場でトラブルが起きていないか不安

企業への巡回訪問


→p.56

東京圏から来た学生に、地方の魅力を感じて欲しい

地方の暮らし体験を提案・実施

→p.57

III-3 事後研修・評価



学んだことを落ち着いて整理する時間を持ってほしい

報告書の作成の指導

→p.59

インターンシップのフィードバックをしたい

アンケート・面談の実施

→p.60


各学生の学びや気づきを他の学生にも共有したい

成果報告会の開催

→p.61

IV 継続的な事業運営のための体制

IV-1 異なる主体との連携



一組織の取組には
限界がある

足りない機能を補う連携先の選定


→p.63

東京圏の
大学等と
連携したい

連携協力に係る重要な5つの観点

→p.64

IV-2 業務の構築・継承



どんな人が
推進力に
なるのだろうか

コーディネーターを選定

→p.67

どうやって
引き継げば良いか
わからない…

ポイントを押さえた引き継ぎ


→p.68

業務が属人的に
なっている…

事務局の持ち回り制度を導入

→p.69

IV-3 財源の確保



インターンシップ
事業に活用でき
る財政支援はな
いだろうか

地方創生推進交付金の活用

→p.71

實 踐 編

観点0 目的・役割分担の決定

この観点のポイント

【観点0-1:目的の設定・共有】

- ・ インターンシップの実施目的を明確化し、関係者と共有します。

【観点0-2:役割分担の明確化】

- ・ 地域のインターンシップにおいて、誰が何を担うのかを明確にします。

観点0-1:目的の設定・共有

よくある課題

企業や担当者によって「インターンシップ」のイメージが様々であり、地域内でイメージが共有できていない…



インターンシップの目的が曖昧であるため、企業の協力を得ることが難しい…

ポイント インターンシップの目的を明確化

インターンシップの目的に応じて、プログラムの内容や期間、対象となる企業や学生等は異なります。インターンシップに取り組む目的を明確にし、それぞれのタイプから得られる教育効果や企業、地域のメリットをしっかりと整理して関係者と共有したうえで、インターンシップを実施することが重要です。

	①業務体験型	②課題解決型	③事業創造型	④仕事理解型
インターンシップを通じて目指すこと	学生が従業員に教わりながら、企業の通常業務を体験する。	企業や地域が抱える課題に対して、学生が調査や提案を行い、さらに実際に行動し、課題解決を体験する。	学生が企業の新規事業や社内変革プロジェクトに参画することで、起業家精神や新規事業立ち上げに必要な行動力等の獲得を目指す。	主にワークショップを通じて、学生が業界や企業について総合的に理解することを目指す。
自治体のメリット	地域に滞在しながらインターンシップを行うことで、仕事や企業のみならず、地域での生活についても具体的にイメージしてもらうことができる。	学生が地域に滞在しながらインターンシップを行うことで、仕事や企業のみならず、地域での生活についても具体的にイメージしてもらうことができる。インターンシップを通じて学生が取り組む活動そのものが地域や地域企業に役立つ可能性がある。地域で充実したインターンシップを体験した学生は、地域のファン(関係人口)になる。	地域に滞在しながらインターンシップを行うことで、仕事や企業のみならず、地域での生活についても具体的にイメージしてもらうことができる。インターンシップを通じて学生が挑戦する事業内容そのものが地域おこしにつながり、学生発の商品等としてPRできる。地域で充実したインターンシップを体験した学生は、地域のファン(関係人口)になる。	地域の魅力的な中小企業の存在や地場産業の特徴・強み等を学生に知ってもらうことができる。

※大学、受入企業、学生のメリットについては5～8ページご参照

経済産業省「コーディネーターガイドブック」をもとに作成

観点0-2:役割分担の明確化

よくある課題

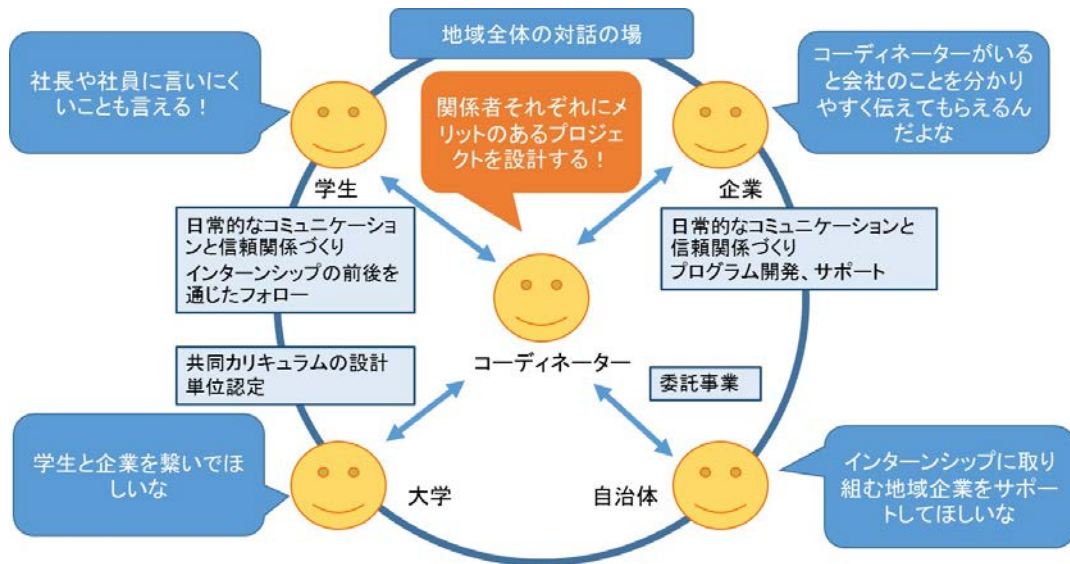
インターンシップに取り組みたいが、人手不足で取り組むことができない…



専任担当者を置きたいが、地域内で適当な団体・人材が見つからない

ポイント コーディネーターの発掘・有効活用

インターンシップへ取り組むためには、自治体や大学、学生、企業の間に入り、それぞれのニーズを調整しながら、受入先の開拓、プログラム設計、学生募集、インターンシップ期間中のフォロー等を行うことができるコーディネーターが必要です。



経済産業省「コーディネーターガイドブック」をもとに作成

コーディネーターを担うためには、大学・地域企業等との関係構築や支援ノウハウが必要であり、地域内で誰がコーディネーターの役割を担うことが適切かを検討する必要があります。地域の中で適当な団体・人材が見つからない場合は、コーディネーターの育成から検討することも考えられます。

【コーディネーターの例】

- ◆ 商工会議所
- ◆ 中小企業団体中央会
- ◆ 地域おこし協力隊員
- ◆ まちおこしや地域活性化へ取り組む企業やNPO法人等

コーディネーターの選定については67ページへ

観点0-2:役割分担の明確化

参考 インターンシップ実施に係る費用負担

- ✓ コーディネーターの担い手を考える際は、コーディネーターの活動に係る費用負担についても併せて考える必要があります。
- ✓ コーディネーターの活動費用を負担する主体として、下記のケースが考えられます。

費用負担の主体	説明	メリット・デメリット
自治体	<ul style="list-style-type: none"> 自治体から業務委託としてコーディネーター機能を発注することになります。 地方創生推進交付金を活用するケースもあります。交付金の詳細や事例については、P70～72「財源の確保」をご参照ください。 	<ul style="list-style-type: none"> 【メリット】自治体がコーディネーターの費用負担を行うため、地域企業の費用負担が少なくなり、インターンシップの受入に対する地域企業のハードルが低くなります。 【デメリット】継続的な予算確保が出来ない場合、事業の継続性が危ぶまれます。
受入企業	<ul style="list-style-type: none"> インターンシッププログラム作成支援や、企業と学生とのマッチング、インターンシップ実施期間中の企業・学生の双方を対象としたフォロー等に対する料金として受入企業がコーディネーターへ料金を支払います。 	<ul style="list-style-type: none"> 【メリット】企業が費用負担を行うため、インターンシップを通じて成果を得ようと、企業が真剣にインターンシップへ取り組みます。 【デメリット】最初にインターンシップを受け入れる際のハードルが高くなります。

※ 事業の立ち上げ時期はコーディネーターの活動費用を自治体が発担し、数年後、インターンシップに対する地域企業の理解が深まった際には、企業負担へ切り替えることも考えられます。中長期的な視点から、継続的にインターンシップを実施するために費用負担を考える必要があります。

事例 秋田県羽後町における地域おこし協力隊の活用

「町職員には定期的な異動があり、インターンシップのコーディネートに必要なノウハウを蓄積できない」という課題を解決するため、地域企業とのつながりがある地域おこし協力隊をインターンシップコーディネーターとして育成し、地域おこし協力隊へインターンシップ事業の実施を委任しています。

＜インターンシップを受け入れた地域企業の声＞

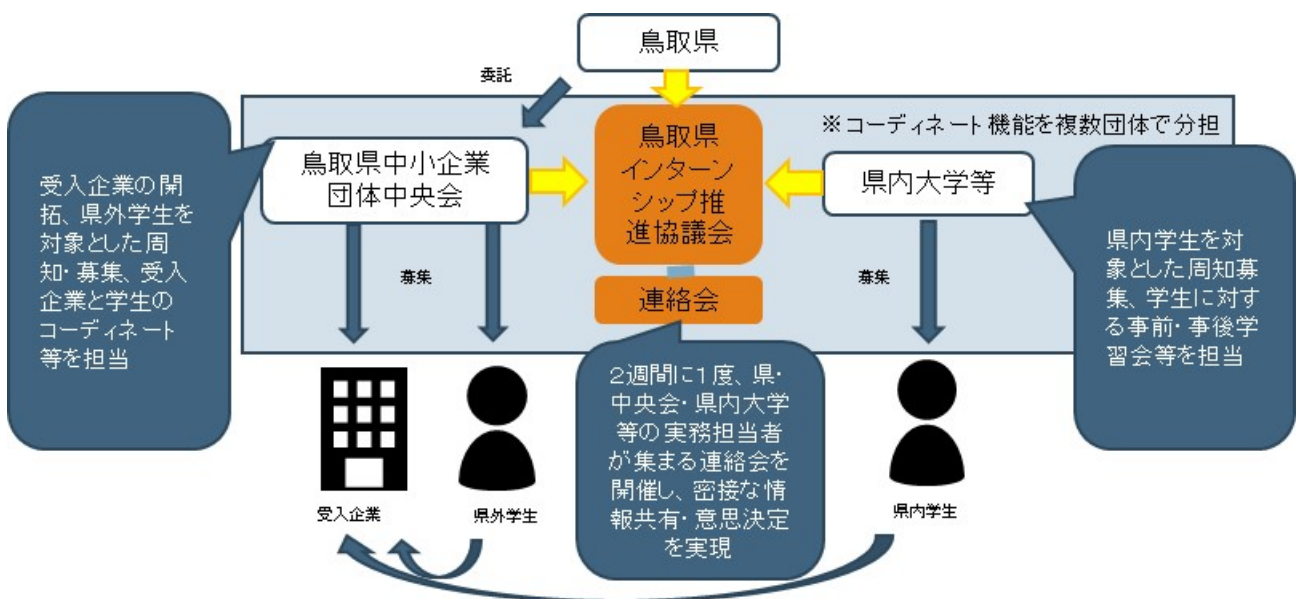
- ✓ 地域を活性化したいと思って動いている仲間として地域おこし協力隊員を認識しているので、コーディネーターとして受け入れやすかった。
- ✓ 町の事業として外部(町外)から来るコーディネーターではなく、すでに人間関係ができている地域おこし協力隊がコーディネートしてくれる内容となっていたので、インターンシップの受入に意欲的になった。

事例 とっとりインターンシップにおける役割分担

1つの団体がコーディネート機能を全て実施するのではなく、地域内の関係者がそれぞれの強みを生かしてコーディネート機能を分担し、とっとりインターンシップを実施しています。

例えば、鳥取県中小企業団体中央会が地域企業とのつながりを生かして受入企業の開拓を担当しているほか、県外学生に対する周知・募集や、受入企業と学生のコーディネート等を担当しています。また県内大学等は県内学生に対する周知・募集を担っているほか、教育機関として学生の学びを深めるため、学生を対象とした事前・事後学習会等も担当しています。

それぞれの役割分担をふまえつつも、関係者間で情報を共有し、協働して意思決定を行うため、2週間に1度、鳥取県・鳥取県中小企業団体中央会・県内大学等の実務担当者が集まる連絡会を開催し、密接な情報共有・意思決定を行っています。



鳥取県「とっとりインターンシップ事業の体制図」をもとに抜粋して作成

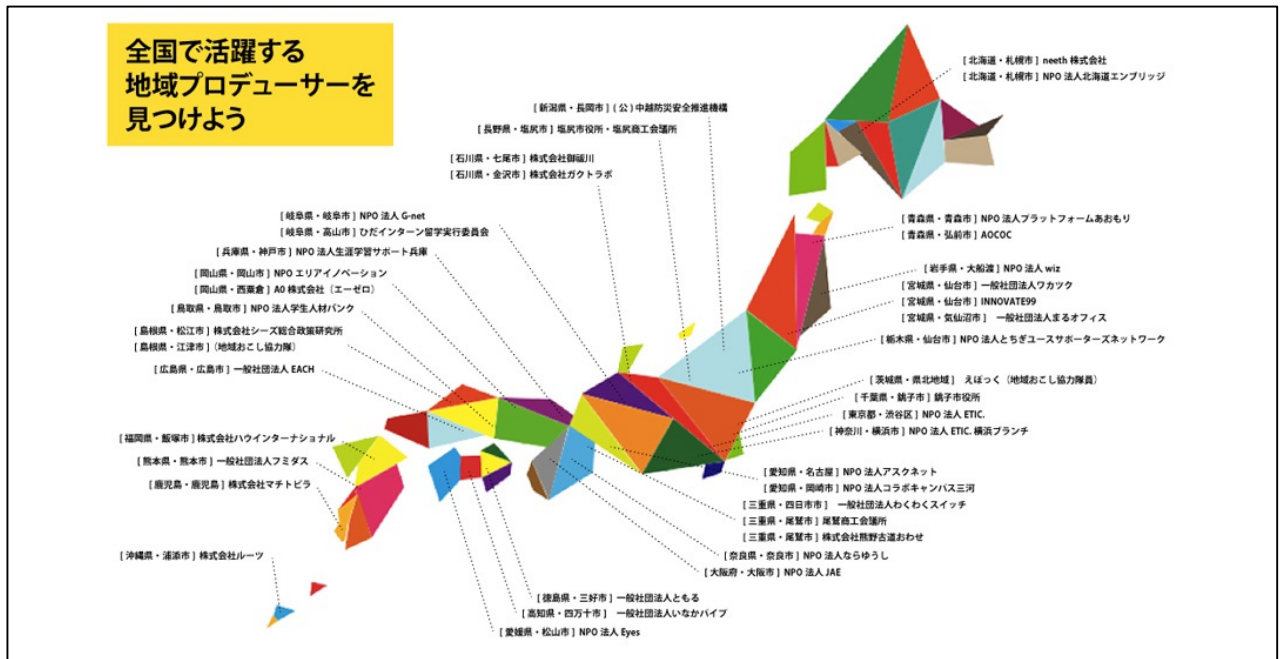
参考 コーディネーターの発掘・育成・活用のためのヒント

■ コーディネーターの発掘のためのヒント

- ✓ コーディネーターの発掘については本誌67ページにもヒントがあります。
- ✓ また、インターンシップをはじめ、地域の様々な場面でのコーディネーターを担っている団体があります。地域内でコーディネーターの担い手となる団体を見つけるため、チャレンジ・コミュニティ・プロジェクトのホームページを確認してみましょう。

チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト「地域プロデューサー」

<https://www.challenge-community.jp/producer/>



チャレンジ・コミュニティ・プロジェクトホームページより転載

■ コーディネーターの活動のためのヒント

- ✓ コーディネーターが実際に活動するためのヒントについては本誌のほかにも各種資料が公開されていますので、ぜひご参照ください。

□ 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
「地方創生インターンシップ推進に向けた自治体・大学等の連携事例集」

□ 経済産業省「コーディネーターガイドブック」

- ✓ インターンシップのコーディネーターを養成するための講座を行っている民間団体もあります。このような講座を上手に活用して、全国のコーディネーターとのネットワークを構築し、互いにノウハウを学び合うことも有効でしょう。



観点Ⅰ 受入先の開拓

この観点のポイント

【観点Ⅰ-1:受入先の探索】

- ・ 地域内において、インターンシップ受入可能な企業を探索します

【観点Ⅰ-2:受入先へのアプローチ】

- ・ 探索した企業とコンタクトを取り、受入について承認をもらいます

観点Ⅰ-1：受入先の探索

よくある課題

企業にとって
「どんないいことがあるのか」が伝わらない

→ポイント①

学生が関心を持
っている企業を
受入先に追加したい

→ポイント③

企業は、何を
依頼されるのか
分からず
警戒してしまう

→ポイント②

実施にあたってのポイント

ポイント① 受入側にとってのメリットを提示(→p.27)

⇒ 受入によるメリットの理解が、取組参加への第一歩

ポイント② 受入企業要件や支援内容を設定(→p.28)

⇒ 何が求められているかを理解できれば受入企業も安心

ポイント③ 学生ニーズに基づき受入企業を探索(→p.29)

⇒ 「学生の思い」が企業の受入意欲を刺激

ポイント① 受入側にとってのメリットを提示

受入先企業の実感したメリットを示すことや、受入によって期待される幅広い効果を示すことが、参加企業の理解醸成につながります。

事例 静岡県インターンシップ導入の手引き(抜粋)

インターンシップを実施する中小企業の

メリットベスト5

※2016年10月～12月にヒアリングをした会社の割合 (詳しい内容は45ページからの事例集をご覧ください)

ベスト1 70%
指導をした若手を中心に、社員の成長を実感します。

ベスト2 60%
採用につながっています。インターンシップに参加して、入社した学生がいます。

ベスト3 40%
ミスマッチが少なくなり、採用率が高まりました。弊社の求める条件に近い学生さんに応募をしてもらえています。

ベスト3 40%
インターンシップの準備をすることで「自社の良さ」、「仕事の意義」、「日常業務の手順」などを見直す機会になります。

ベスト5 30%
フレッシュな学生の意見や視点にハッとさせられます。

出所)「始めようインターンシップ インターンシップ導入の手引き(静岡県)」より抜粋
(<http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-130/documents/internship.pdf>)

そんなに
メリットが
あるのか!



企業担当者

事例 大学コンソーシアム大阪 期待できる効果(抜粋)

メリット1:人材育成と社会貢献の両面で効果的です



メリット2:社内の活性化につながります



メリット3:新たな視点や感性に触れることができます



メリット4:大学との連携強化が期待できます



メリット5:業界のPRや魅力発信に有効です



我が社も
受入を
はじめよう!



企業担当者

出所)「大学コンソーシアム大阪」webサイトより抜粋
(<http://www.consortium-osaka.gr.jp/general/intern/>)

参考：企業へのPR資料

地方創生インターンシップポータルサイトでは、企業へインターンシップのメリットや効果を周知するためのリーフレットを公開しています。ぜひご活用ください。
<https://www.chisou.go.jp/sousei/internship/index.html>



ポイント② 受入企業要件や支援内容を設定

学生の受入にあたって、企業に求めることを示すことや、受入先企業に対する支援内容等を示すことは、企業の安心感につながります。

事例 鳥取県 とっとりインターンシップ実施要綱（抜粋）

（受入先企業の実施要件）

第4条 インターンシップの企業(以下「受入先企業」という。)は、次の要件を全て満たすものとする。

- (1) 本事業の趣旨を理解した人材育成意欲のある企業等で、県内に事業所を有するものであること。
- (2) 本事業での調整、書面の取り交し等において協力が得られること。
- (3) 主として、県内での実習が可能であること。
- (4) その他、インターンシップに当たって以下の必要な要件を満たすこと。
 - ・受入先企業は、期間満了までの実習の実施に努めなければならない。
 - ・**1日の実習時間は8時間以下**とする。
 - ・**本事業は、受入先企業での労働力の確保を目的としたものではなく、対象学生と受入先企業との間に使用従属関係は存在しないものであり、作業等の強要や時間外の実習等、本事業の趣旨を逸脱した受入先企業からの指示に従う必要はないものとする。**
 - ・受入先企業は、対象学生に給与または手当、金品その他の名目を問わず実習にかかる対価は支払わないものとする。
 - ・受入先企業は、実習に必要な場合を除き対象学生に金銭、有価証券その他貴重品の取り扱いをさせないものとする。
 - ・受入先企業は、対象学生に自動車等の車両の運転をさせないものとする。
 - ・受入先企業は、対象学生から本事業の実施に関し、金銭等を受け取ってはならないものとする。

（実習期間）

第5条 本事業の実習期間は、**5日間以上(希望により長期も可能)**を基本とする。ただし、対象学生の希望、受入先企業の状況によってはこの限りではない。また、やむを得ない事情で実習を継続することが困難な場合は、中央会、受入先企業及び所属学校等で協議の上、中断又は中止の決定をすることができる。

（実施内容）

第6条 本事業の実施内容は、次のとおりとする。

- (1) 中央会、県内高等教育機関及び県は密に連絡を取り、本事業の広報、対象学生の募集、登録及び受入先企業の開拓、登録を行う。また、本事業に伴い、学生に対しては事前・事後学習、受入先企業に対しては、本事業の研究会、ふりかえり会等を計画する。
- (2) 中央会は、所属学校等と連携して本事業の対象学生と受入先企業とのマッチングを行い、インターンシップにおける支援等を行う。

（コーディネーターの配置）

第7条 前条に係る実施内容を遂行するため、中央会にコーディネーターを配置する。

（経費負担）

第8条 中央会は、本事業実施に係る「**対象学生の損害保険料及び賠償責任保険料**」「**交通費・宿泊費の助成**」を負担するものとする。また中央会は受入先企業に対し、学生受入に伴う受入事務経費等を支払うことができる。

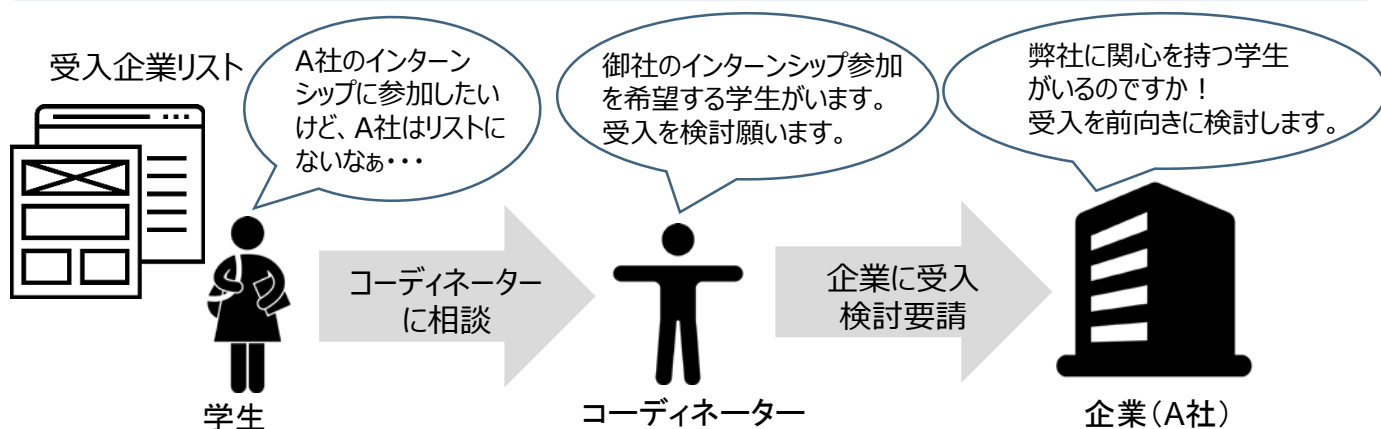
（実習中の事故への対応）

第11条 本事業での実習中の事故については次のとおり取り扱う。

- (1) インターンシップ中(自宅又は宿泊先と受入先企業との移動時を含む。)の傷害、事故等に備えて、**中央会は傷害保険及び賠償責任保険に加入**する。
- (2) 対象学生が、受入先企業又は第三者に対し、**傷害又は損害を与えた場合は、法令等に従って中央会の加入する保険により処理**するものとし、中央会はこの範囲を超えての責任は負わない。

ポイント③ 学生ニーズに基づき受入企業を探索

受入表明をしていない企業でも、学生の参加ニーズ・意欲に基づいて依頼を行えば受入先企業にエントリーしてくれる場合があります。



事例	和歌山県の取組	内容
		<ul style="list-style-type: none"> 学生から相談があった際に、本年度に受入表明をしていない企業であっても、その学生が当該企業のインターンシップに参加したい場合には「当該企業名称を記載してエントリーするように」と伝えている。 そのような場合、学生のエントリーをもとに、当該企業に個別に訪問・依頼して、受入調整を行なっている。多くのケースでは、学生の思いを好意的に受けとめてくれ、受入に至っている。

コラム：学生は、地方にどんな仕事があるのかピンとこない

地方就職を実現した方との座談会では、こんな発言がありました。

- 地方自治体だからこその、
「この企業が成長している、今後は伸びるよ」というような情報が欲しい。
(福岡・女性28歳)
- 地方の会社の情報は少ない。
つくっている製品や離職率等を
知りたい。
(福岡・男性29歳)

地方公共団体による、地方創生インターンシップの周知を行うだけでなく、地方に立地する企業の情報を、学生が興味を持つように発信することも大切です。

参考：福井県：「実は福井」の技（抜粋）

ファッション

全国的に知られる福井の地場産業「繊維、メガネ」や、美容、クリーニングなど、ファッション関連製品に、福井の技術が活かされています。

- 美容、美容
 - 美容・美容ハサミ シグナス内山
 - 美容客向けヘアカラー剤 日華化学
- 衣料品
 - 【洋服・インナーウェアなど】和紙糸用などの高機能繊維 山崎繊維
 - インナーウェア用レース タカダレース 国内シェア1位
 - 合成繊維に保潔機能を付与する加工技術「SANDY」 高橋工業
 - 高性能消臭商品「DEOEST」デオエスト」セーレン
 - 45,000点の高増入を誇るファッションロボット SHIROO
 - 吸水・撥水機能付「アクアホール」井上アブリーブ
- 繊維機械
 - 高密度多色柄無縫製の浴衣帯 国内シェア1位 小林織物
- 繊維素材
 - 高ファスナー「マジックテープ」クラレファスニング 国内シェア1位
 - 反射材丸に
 - ジームレス編みラッシュル織 世界シェア1位 日本マイヤー
 - 布目矯正機 国内シェア1位 セーレン電子

出所 福井県『「実は福井」の技』webサイトより抜粋
(<http://info.pref.fukui.jp/tisan/sangakukan/jitsuwafukui/>)

観点1-2：受入先へのアプローチ

よくある課題

企業の負荷感が強く、受入に至らない

→ポイント①

夏休みに受入れをするためには、早く企業のリストアップをしたい

→ポイント③

企業の現場の従業員の理解・協力が
必要だ…
→ポイント②

実施にあたってのポイント

ポイント① 受入企業の負担感を軽減(→p.31)

⇒ 「いつ・なにをやる」「どんな支援がある」のか全体の見通しを示して安心感を醸成

ポイント② 企業での受入イメージの沸くPR(→p.32)

⇒ 現場の従業員の受入モチベーションを向上

ポイント③ 「(前年度末)事前受付」の工夫(→p.33)

⇒ 学生による早期の検討を促すことで、地方でのインターンシップ参加を促進

ポイント① 受入企業の負担感を軽減

いつ・なにを行うのか全体の見通しや、必要な書類様式の提示、受入先企業への支援内容を示すことで、企業の負担感軽減につながります。

事例 インターンシップ登録の流れを端的に提示（富山県）



事例 必要となる各種様式を自治体が用意（山口県）

① インターンシップ実施に関する学校と企業等との覚書

② インターンシップ研修の概要（学校、学生、企業等で確認し、作成）

③ 誓約書（学生が企業等に提出）

④ 体験レポート

⑤ インターンシップ申込書

出所)「山口県インターンシップ推進協議会」webサイトより抜粋(<http://www.y-internship.com/formstyle/index.html>)

事例 推進組織による支援メニューを提示（福島県）

インターンシップ受入企業に対する支援について

(1) ガイドブックの作成及び配付

- ・ インターンシップ受入経験がない、受入方法が分からないと感じている企業に、「インターンシップとは何か？」から「インターンシップの取組事例」まで、ガイドブックにより、わかりやすく説明する。

(2) インターンシップアドバイザーの派遣

- ・ 「インターンシップにどう取り組んでいくか。」について、受入企業の個別事情や特性に合わせて、専門アドバイザーが相談に応じ助言する。

(3) 受入企業の情報、インターンシップ内容の紹介

- ・ 県の特設WEBサイト(<http://f-turn-is.jp/>)において、受入企業の業務概要や魅力について、インターンシッププログラムと併せて掲載し、県内外の学生に情報発信する。

(4) マッチング

- ・ 企業の受入条件を踏まえて学生を募集し、参加を希望する学生とのマッチングを行う。
- ・ 受入が決定したら、学生との連絡調整を行い、インターンシップ実施までの案内をする。

※全ての支援は、無料で実施。

出所)平成29年度「Fインターンシップ推進事業」参加の手引き(受入企業用)より抜粋
(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/220090.pdf>)

ポイント② 企業での受入イメージの沸くPR

実際の受入れの様子や、受入れによる現場への効果を示すことは受入先企業における従業員の理解・協力の促進につながります。

事例 宮崎県 みやざきインターンシップのすすめ（抜粋）

Simulation! インターンシップの内容や学生との接し方をシミュレーション!

インターンシップの中身は、大きく分けて**3つの形式**があります。
※傾向として3つのうち2つの形式を組み合わせたことが多い。

業務体験型インターンシップ
業務の一部を経験してもらう。または一社員として働いてもらうなど自社の業務内容を理解してもらうための実践タイプ。

課題解決型インターンシップ
企画立案などのテーマを出し、それを学生に考えてもらい、最後にプレゼンテーションで企画発表という流れです。

講義セミナー型インターンシップ
ワークや座学などをしながら、自社や業界などの魅力について伝えていきます。

講義セミナー、業務体験、座談会 株式会社日向中島鉄工所



管理職・リーダー社員が会社の概要や業務内容を、講義セミナーワークを通してレクチャー。

モノづくりの工程やおもしろさが理解できるようなワークを実施 **Point!**



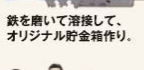
ユニフォームとヘルメットを着用!



ワーク実施中に出てきた内容について、言葉だけでなく、実物を見てもらうのがいいと判断し、急遽場所を移動、説得力がアップしました! **Point!**



実務はやっぱり楽しそ! **Point!**



鉄を磨いて溶接して、オリジナル貯金箱作り。



実務は現場の社員に任せ、締める社長が、学生にとって経営者と話せる機会は貴重です。 **Point!**

社長との座談会がスタート。



企業の感想

インターンシップの目的は、自社の魅力を学生に知ってもらうこと。今までインターンに参加した2、3名の大学生を採用しました。企業にとってもやるべきことが見えてくるよい機会になり、学生、企業どちらにとってもいいものだ実感しています。



company profile
株式会社日向中島鉄工所
1.食品用機械・設備の設計・製作・据付
2.その他産業用機械・設備の設計・製作・据付
従業員55名

アイスブレイクワーク、座談会、業務体験、企画提案、プレゼンテーション マイニチ フーズ



互いの自己紹介やアイスブレイクなどのゲームで学生が参加しやすい環境を作る。今回はペーパータワーゲームを実践。



学生からインタビューを受ける高藤社長



業務体験はそれぞれのリーダーに任せて、社員との交流機会も多く設けました。 **Point!**



実際に手羽先を手作りする現場で業務体験



企業の感想

これから幹部候補生を育てていきたいと思っているので、今後の採用活動も考慮しての実施でした。まず弊社の名前を知ってもらえたことがよかったです。それに皆さんの企画がとても面白くて、参考になりました。インターンシップ、やってみてよかったと実感しています。

座談会、業務体験、企画提案、プレゼンテーション リサイクルショップ三喜



まずは企業から元気に挨拶し名刺を学生さんに渡しました。そうすれば会社名も自分の名前も覚えてもらいやすくなります。学生のモチベーションも違わず! **Point!**

ご挨拶&自己紹介



学生から質問が出る! **Point!**



会社説明の資料を配布し職務内容を説明しました。質疑応答タイムも。



店舗に移動し、店内を紹介。

任せることは、社員の責任感やリーダーシップなど多くの効果あり。 **Point!**



学生が好きそうなものや、面白い商品をあえて用意しました

その後、一部社員に任せ、見守ることに徹します。



プレゼンテーション

意外的なアイデアが続出!

「新店舗を出すとしたら、どこにどんなラインナップとレイアウトのお店にするか」という課題を出し、チームで考えてもらいます。

企画内容だけではなく学生自身の良い点などもフィードバックすることで、モチベーションも高まります。 **Point!**

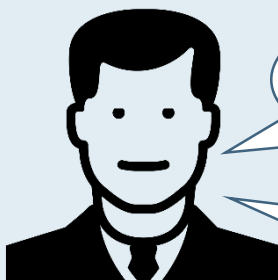


企業の感想

若い方、しかも顧客の新規ターゲットである女性の声を聞けたのがすごくよかったです。まずは会社名を知ってもらうことから、もっと体験してもらえることを準備して、大学生向けのインターンシップを実施していきたいです。



company profile
株式会社三喜
リサイクルショップ経営(県内に3店舗)
従業員42名



企業の経営者

受入企業では、こんな取組を実施しているのか。社員にもいい影響がありそうだな。

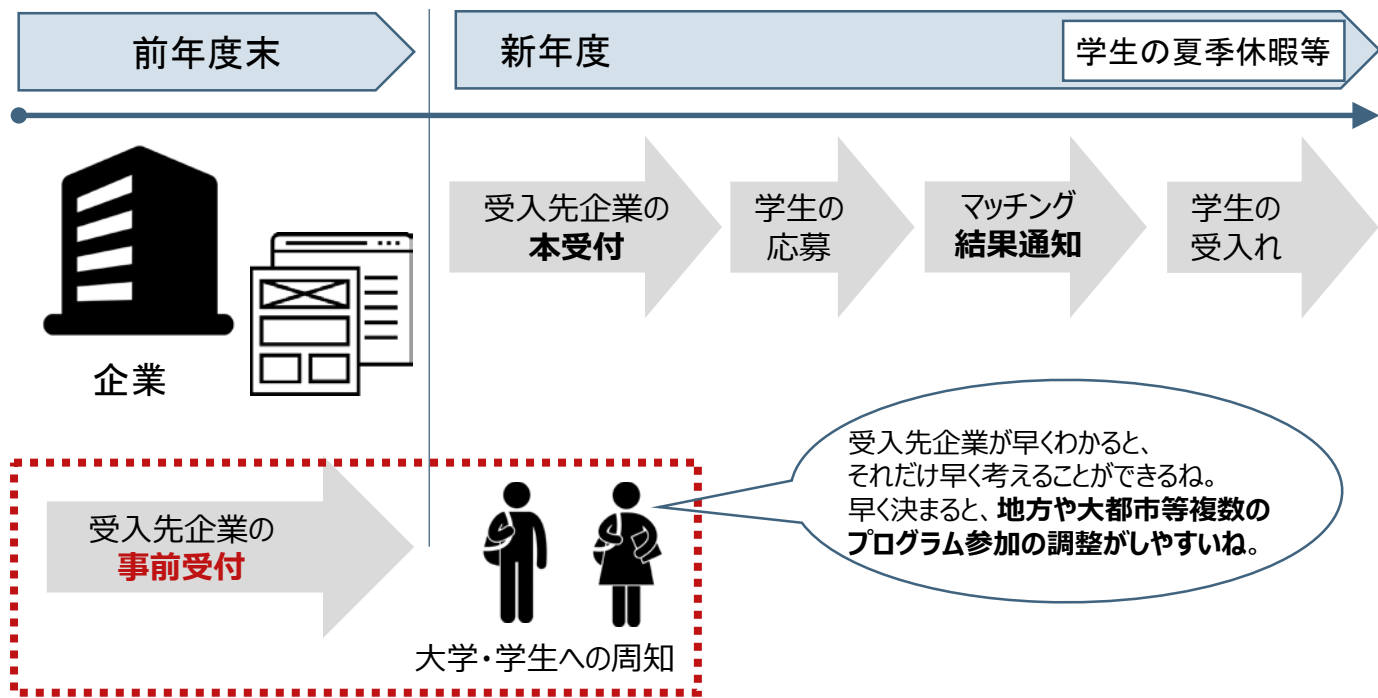
こんな様子なら、我が社の社員も、気持ちよく受け入れてくれるだろうな。

出所)「みやざきインターンシップNAVI」webサイト

(https://internship.pref.miyazaki.lg.jp/common/files/panflet_company.pdf)

ポイント③ 「(前年度末)事前受付」の工夫

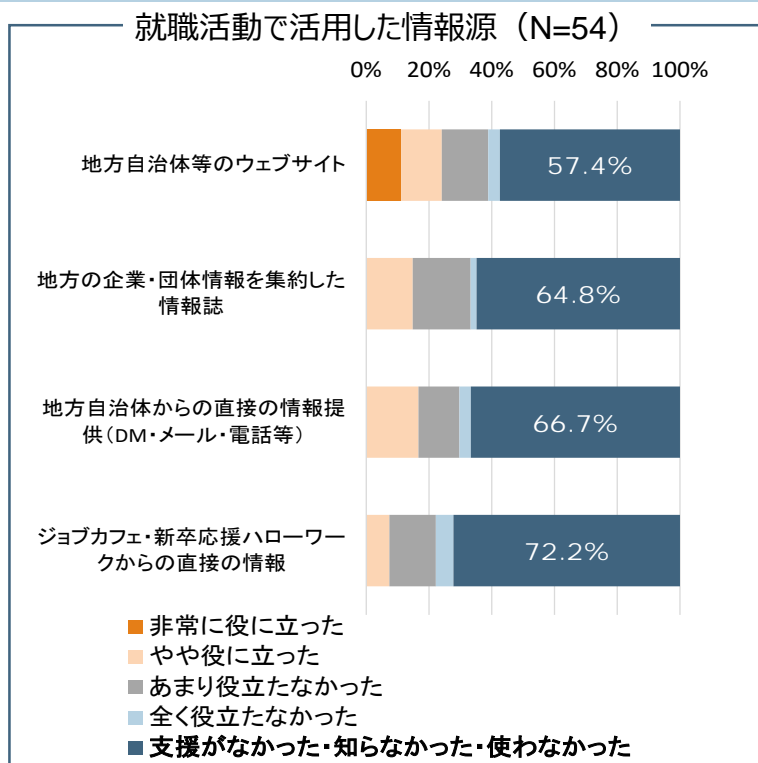
事前受付を導入することで、学生は早期に参加を検討することができます。複数プログラムへの参加が検討しやすくなることで、地方でのインターンシップ参加を促すことができます。



コラム：地方公共団体等によるインターンシップの取組の認知度は低い

地方就職を実現した学生が就職活動中に活用した情報源として、地方公共団体等が発信している情報については過半数が「支援が無かった・知らなかった・使わなかった」と回答しています。

全国各地の地方公共団体等で、地方インターンシップに関する取組が進められていますが、十分に認知されていないことが窺えます。



観点II プログラム設計

この観点のポイント

【観点II-1: 受入プログラムの検討】

- ・ インターンシップの実施目的や時期、期間、内容等を検討

【観点II-2: 学生への広報・募集】

- ・ インターンシップ情報の学生への周知、参加募集

【観点II-3: 企業と学生のマッチング】

- ・ 学生の参加先となる企業を決定

【観点II-4: 受入手続き】

- ・ 学生の受入にあたって、書面の取り交わしや必要な手続きを実施

観点II-1 : 受入プログラムの検討

よくある課題

学生に何をさせれば良いか
困っている企業が多い…

→ポイント①

プログラムを
効果の高いものにしたい

→ポイント②

個性的なインターンシップ
プログラムの事例を知りたい

→ポイント③

実施にあたってのポイント

ポイント① 企業向けセミナーの実施(→p.35)

⇒ 企業がプログラムを検討する際のヒントを提供

ポイント② 目的の明確化(→p.36)

⇒ 企業がどのようなインターンシップを実施すべきかを明確化

ポイント③ 実践型のインターンシップ(→p.37)

⇒ 企業・学生の双方が共同で課題を検討

ポイント① 企業向けセミナーの実施

インターンシップを導入するに当たって検討が必要な事項に関する情報を企業に提供することで、企業が具体的に検討する手助けになります。

【セミナーのプログラム例】

- インターンシップとは
- インターンシップ導入のメリット
- 他社での導入事例
- インターンシッププログラムの作り方
- インターンシップの留意事項

他の会社の取組が
参考になる！
うちもやってみよう！



セミナー担当者
(推進主体)



出所)和歌山県提供資料

好事例：業種毎にモデルプログラムを提示（岩手県）



製造業（システム設計部門）

企業から提示された課題を通して、モノづくりマインドを体感する。

モノづくりの基礎知識や職場の現状を学生に伝えたくて、実業務における課題を見つけたところからスタート。課題にもとづき、何が足りないか、どうすればよいかを考えさせながら、改善案を企画しプレゼンテーションを行うことで、学生自身の力がどのように現場で役立つかを認識したり、実際に製品製造だけが製造業ではないことを実体験を通して気づいてもらうことができる。

	午前	午後
1 日 目	<input type="checkbox"/> オリエンテーション ・ 会社概要説明 ・ 工場案内	<input type="checkbox"/> 実習 ・ 旋盤、仕上げ工程実習、 金属製品の仕上げ加工、 洗浄などの最終工程作業
2 日 目	<input type="checkbox"/> モノづくりの基本研修 ・ モノづくりの考え方 （安全衛生、品質、コスト、納期、改善） <input type="checkbox"/> 実習 ・ 生産管理（生産指示、納期管理、生産管理システム）	<input type="checkbox"/> オリエンテーション ・ 生産技術 （CADの概要・簡単な図面作成） ・ 品質保証 （品質に対する考え方、顧客からの要求事項等）
3 日 目	<input type="checkbox"/> 営業研修 ・ 商品プロモーション ・ 受注までの流れとポイント	<input type="checkbox"/> 営業同行 ・ 顧客のニーズを理解する
4 日 目	<input type="checkbox"/> 課題の取り組み ・ 課題提示「業務ソフトウェアの改善企画書の制作」 ① 課題生成（やりにくい、見にくい、分りにくい等の問題把握） ② 情報システム導入のための企画立案、要件定義 ③ 情報システム化による課題の解決	
5 日 目	<input type="checkbox"/> 実習 ・ 業務ソフトウェア（在庫情報システム）の 企画提案書作成	<input type="checkbox"/> 成果発表・総括 ・ 企画提案書のプレゼンテーション ※システム部の社員が評価 ・ 研修レポート作成、実習内容のまとめ

業種ごとのモデルプログラムを提示

出所)「企業と学生をつなぐ インターンシップガイド(東北インターンシップ推進コミュニティ)」
<https://tohoku-is.jp/cms/wp-content/uploads/2015/10/2d37ef2e771646963c1073b92087c9b5.pdf>

【併せて参照したい】

岩手県の事例・・・p.82～83

ポイント② 目的の明確化

なぜ、インターンシップを実施するのか。インターンシップを行った結果、どのような結果がもたらされることを期待しているのか。企業の中で明確な答えを持つように促すことで、どのようなインターンシップを実施すれば良いかが見えてきます。

好事例：インターンシップの目的と実施案（岩手県）

学生アンケートから見えるプログラムのポイント

「単調な作業でやりがいを感じられなかった」
→細かなルーティンワークの重要性をしっかり説明し、仕事の意義を理解させてください。

「課題に一日中取り組んでいたのに、企業の人と話すことがなかった」

「担当者の説明だけだった。実際に職場で見学・体験してみなかった」

→社員と接触する機会も学生の成長につながります。短期間でも、実際の仕事の様子を見せたり、様々な職種・部署から話を聞くことは貴重な経験となります。

「企業からのフィードバックやアドバイスをもっともらいたかった」

→企業で実際に働く人とのやりとりを通じて、働くことのイメージや企業理解が深まります。

学生からの声を下に、より良いプログラムづくりのための目的の明確化を促す

目的

組み込み例

学生に仕事の魅力をもっと感じてほしい

- 様々な職種や年齢の社員と接点を持たせる
- 営業に同行したり、実際に業務の一部を体験させる
- 小さくても成果を実感させる

学生と接することで、社員の人材育成の意義やスキルを向上させたい

- 受け入れる部署ごとにプログラムを用意してもらう
- 若手社員に現場のOJTや学生の世話役を任せる

学生がどのように自社の仕事について感じるのか知りたい

- インターンシップ前後の感想をヒアリングする
- 課題を設定して、その解決のために必要な体験や社員との接点を用意し、発表させる

出所)「企業と学生をつなぐ インターンシップガイド(東北インターンシップ推進コミュニティ)」
(<https://tohoku-is.jp/cms/wp-content/uploads/2015/10/2d37ef2e771646963c1073b92087c9b5.pdf>)

ポイント③ 実践型のインターンシップ

単なる職場体験に留まらず、企業の一員として、責任のある仕事を行うため、学生自身の成長にもつながります。
企業にとっても、経営課題の解決にチャレンジするきっかけとなります。

通常のインターンシップ

本当は企業課題を
解決したいが、
良いきっかけがないな...



企業の担当者



学生

インターンシップは
勉強になったけど、
5日間じゃ物足りない

実践型インターンシップ

⇒半年以上かけて、企業と学生が共通の課題を解決する

共同で研究開発等を実施



企業の担当者



学生

単位認定



大学

【併せて参照したい】

長野県辰野町の事例・・・p.76～77／富山県の事例・・・p.78～79／
和歌山県の事例・・・p.96

観点II-2 : 学生への広報・募集

よくある課題



ポイント① プログラムを具体的に提示(→p.39)

⇒ 情報の受け手となる学生は効率よく判断することが可能

ポイント② 検索しやすいページの構築(→p.40)

⇒ 学生の専門や興味に合った企業を地方で探すことが可能

ポイント③ 地元出身の学生の把握(→p.41)

⇒ 情報を学生に直接届けることで、地方でのインターンシップ参加やUターン就職につながる可能性UP

ポイント① プログラムを具体的に提示

情報の受け手となる学生が、具体的にイメージできるようなプログラムを提示することで、関心を喚起することが出来ます。

良くないプログラム説明の例

〇〇製作所インターンシップ

「職場体験」って何？
よく分からない…



学生

以下の通り、インターンシップを実施します。

日程	内容
1日目	オリエンテーション
2日目	職場体験
3日目	職場体験
4日目	職場体験
5日目	職場体験、成果報告

良いプログラム説明の例

□□工業インターンシップ

帰省のタイミングで参加しようかな



学生

日時: 8月×日～×日(5日間)
条件: 県外から参加する学生には交通費を補助します(社員寮の使用は応相談)

日程	内容
1日目	オリエンテーション
2日目	製造現場での品質管理体験
3日目	部品設計・発注オペレーション体験、現場社員との意見交換
4日目	製品の発送体験、成果発表会に向けた資料作成
5日目	成果発表会

こんな人にオススメ:
製品企画に携わってみたい



学生

具体的で分かりやすい!
毎日違うことをやるんだな。

【さらに工夫】募集内容表現のチェックポイント

→ 受け手が効率よく、判断できる情報を提供

- ✓ 他のインターンシップと差別化されているか
- ✓ (ターゲットの)学生がピンとくる表現か
- ✓ 単にやること(業務)の羅列になっていないか
- ✓ 社会的意義・社会的重要性等のやりがい分かるか
- ✓ 具体的にプログラム等が示されているか
- ✓ どんな人にオススメか
- ✓ どんな経験・スキルが得られるか

ポイント② 検索しやすいページの構築

検索が容易なページを構築することで、学生が興味のある企業にたどり着く可能性が高まります。



サイト内で条件検索ができると便利！
専門を活かした地方の企業、出身地の企業が探せる！

好事例：東北インターンシップ推進コミュニティwebページ（岩手県）

【働きたい場所を選択】

※大学ロゴをクリック



【夏休みに帰省する学生さんへ】
出身地でのインターンシップにも参加可能です！

就業地をすぐに見えます！

インターンシップ情報検索

【条件を指定して検索】

○ 主催大学

(選択) ▼

学生自ら条件
検索ができます！

○ 業種

(選択) ▼

○ 就業地

(選択) ▼ 県 (例) 市町村

○ 受け入れ期間

(選択) ▼

○ 事業所名

例) 食品・システム等

○ 体験内容

例) 事務・サービス

○ チャレンジポイント

例) コミュニケーションスキル

出所) 東北インターンシップ推進コミュニティwebサイト (<https://tohoku-is.jp/>)

【併せて参照したい】

東北インターンシップ推進コミュニティの活動・・・p.82

ポイント③ 地元出身の学生の把握

地元出身学生を把握することで、直接情報を届けることができ、学生が関心を持ちやすくなります。



自治体

- ・氏名
- ・大学入学年度
- ・進学先地域
- ・連絡先
- ・帰省先 等

高校卒業時等に学生へ照会



学生

好事例：webページで学生が情報登録（島根県）

ようこそ「くらしまねっと」「ジョブカフェしまね」の共通会員登録ページへ！

「くらしまねっと」「ジョブカフェしまね」の共通会員登録ページです



わずか1分でまずは会員登録。
届がないでいいくらいにUI/UXをお考えの方も、届内在で地元企業への就職をお考えの学生・社会人の方も、
サイトを活用いただくことで、あなたの求職活動がもっと便利に、もっと快適に！

会員限定！7つの便利なサービス（無料）

- 企業からスカウトメールが届く
- 気になる求人をストック・応募できる
- 複数求人へ一括応募が可能
- 希望条件に合った求人をご推薦
- 豊富なイベントにサイトから申込可能
- しまね暮らしに有益な情報をメールで配信
- 無料職業紹介が求職活動をサポート
※無登録求職紹介は社会人向けのサービスです

メールアドレスで会員登録

氏名 姓 名

メールアドレス

パスワード

パスワード (確認)

利用規約及び個人情報保護に関する事項 (同意の上)

Facebookで会員登録

利用規約及び個人情報保護に関する事項 (同意の上)

くらしまねっとが許可なくFacebookへ連携することはありません。

既にアカウントをお持ちですか？ログイン

出所)ジョブカフェしまねwebサイト (<https://jobcafe-shimane.kurashimanet.jp/job/signup/?root=job>)

地元を離れた学生に対して、webでの情報登録を促すことも有効です

個人に直接リーチできる
情報登録を依頼します

SNSアカウントでも
登録可能

参考：学生へのPR資料

地方創生インターンシップポータルサイトでは、学生へインターンシップを周知するためのリーフレットを公開しています。ぜひご活用ください。

<https://www.chisou.go.jp/sousei/internship/index.html>



【併せて参照したい】

佐賀県の事例・・・p.98

観点II-3 : 企業と学生のマッチング

よくある課題



ポイント① 複数の方法から選択(→p.43)

⇒ 様々な手法の中からメリット・デメリットを勘案して実施方法を選択

ポイント② テレビ電話やサテライト会場を活用(→p.44)

⇒ 東京圏にいながらにして、学生が面接を受けることが可能

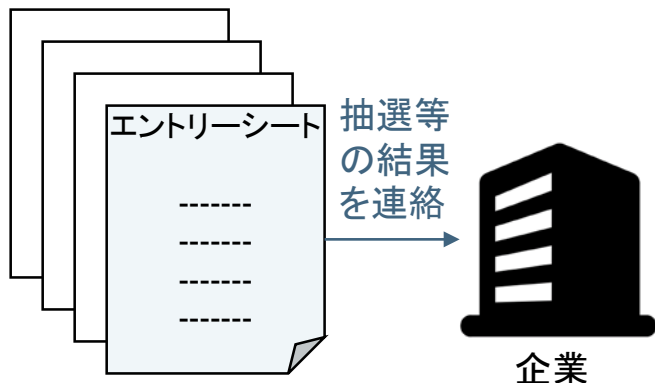
ポイント③ 複数の希望を登録(→p.45)

⇒ 多くの学生に対してインターンシップの機会を提供することが可能

ポイント① 複数の方法から選択

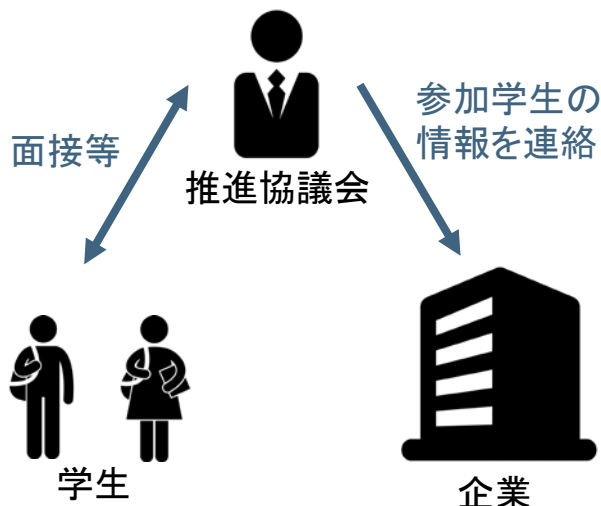
学生のマッチングには、複数の方法があります。
それぞれのメリット・デメリットや、参画大学や企業の事情を勘案して決めましょう。

機械的にマッチングを行う (抽選等)



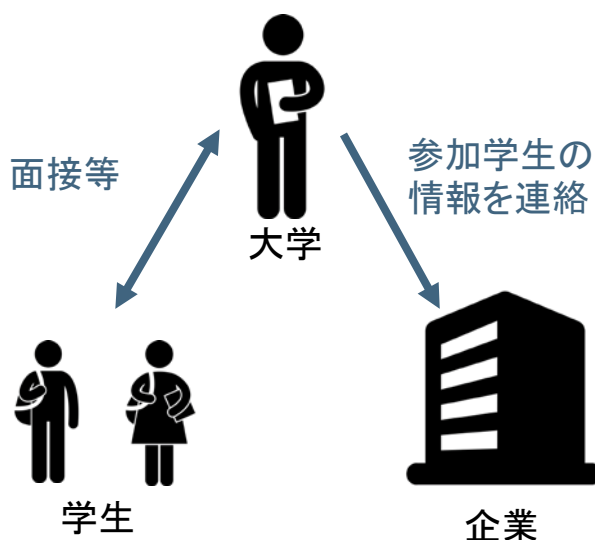
メリット: マッチングの手間が少ない
デメリット: 学生と企業のみスマッチが生じやすい

推進協議会等で選考を実施



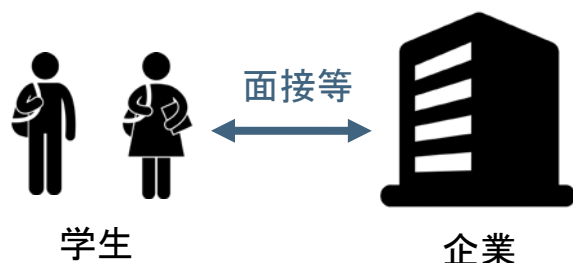
メリット: 参加者数のコントロールができる
デメリット: 推進協議会の負担になる

大学で選考を実施



メリット: 学生のキャリア教育を考慮できる
デメリット: 大学の負担になる

企業で選考を実施



※複数企業が合同で実施することもあります



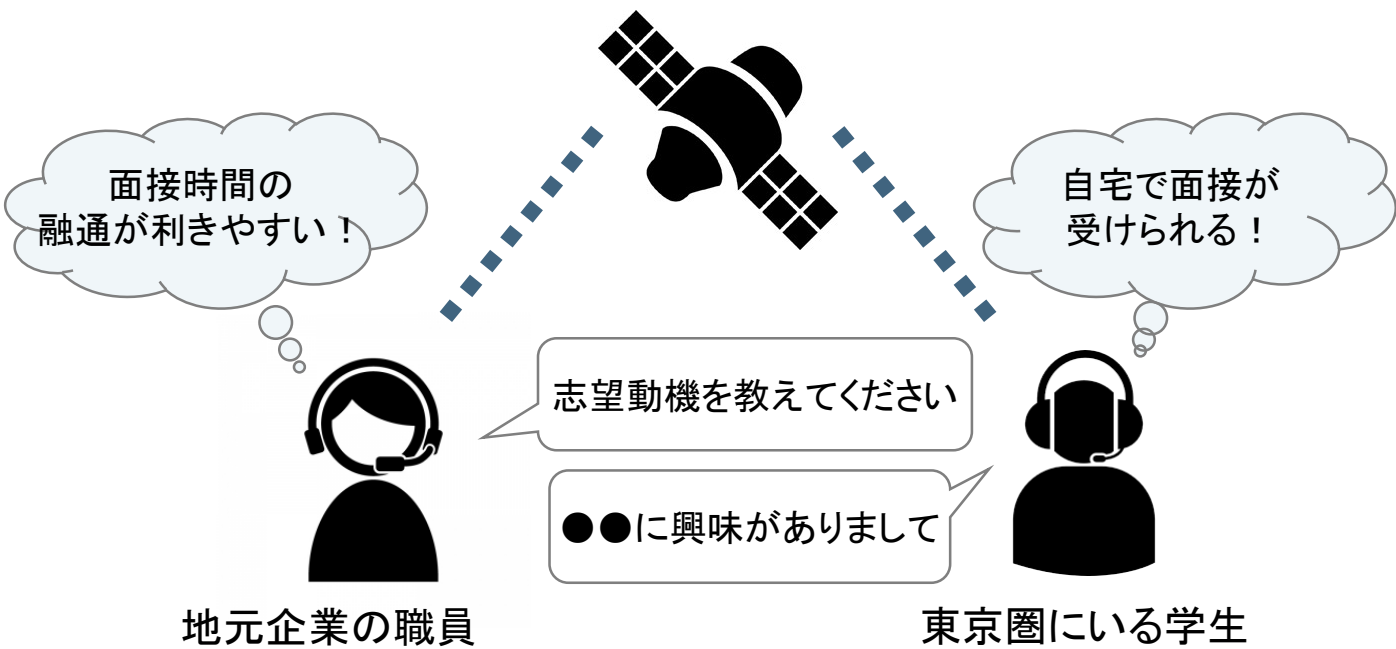
出所) 熊本県
提供資料

メリット: 学生と企業のみスマッチが少ない
デメリット: 企業間での参加者の平準化ができない

ポイント② テレビ電話やサテライト会場を活用

ICTを活用したり、地元に限らず会場を設定することで、企業と学生の双方の負担を軽減します。

工夫① テレビ電話(Skype等)の活用

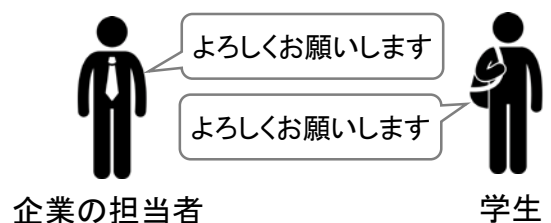
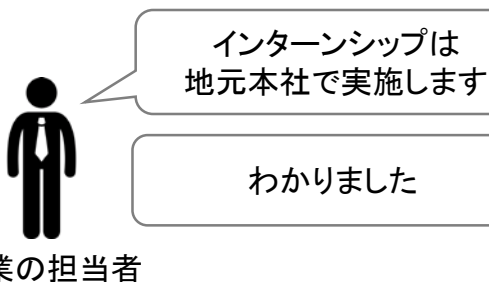
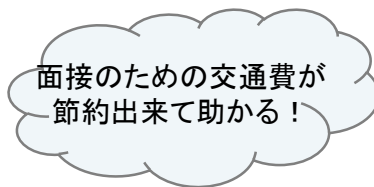


工夫② サテライト会場の活用

ステップ1
東京支社で「面接」を実施



ステップ2
地元本社でインターンシップ



ポイント③ 複数の希望を登録

第1希望の企業でのインターンシップが合わなかった学生であっても、インターンシップに参加できる可能性が高まります。

インターンシップの選考に
漏れたから、インターンシップ
そのものに参加できないよ



学生

複数の希望が出せるから、
第2希望の企業で参加できた！



学生

好事例：複数の希望先を記入できるwebページ（福島県）

インターンシップ先第1希望

企業名	<input type="text"/>
参加希望日	<input type="text"/>
志望動機	<input type="text"/>

インターンシップ先第2希望

企業名	<input type="text"/>
参加希望日	<input type="text"/>
志望動機	<input type="text"/>

インターンシップ先第3希望

企業名	<input type="text"/>
参加希望日	<input type="text"/>
志望動機	<input type="text"/>

インターンシップ先企業が決まっていない方は、希望する業種・職種またはやってみたいインターンシップの内容を自由にご記入ください。
また、インターンシップ先企業を選定する上でお悩みの点があれば自由に記載ください。

業種例：農業、製造業、小売業、金融業、情報通信業 等
職種例：一般事務、営業、保育士、製造オペレーター 等

業種・職種
希望内容 等

参加を希望する企業が具体的に決まっていな場合、**業種・職種での登録**も可能です

学生は第3希望まで登録することが可能です

出所) Fターンシップwebサイト (<http://f-turn-is.jp/>)

観点II-4 : 受入手続き

よくある課題



ポイント① 必要な書面のひな型を用意(→p.47)

⇒ インターンシップ参加条件等の事前のすり合わせや、事務手続きの省力化

ポイント② 学生への注意事項の伝達(→p.48)

⇒ 企業と学生が事前に接触することでお互いの安心感を醸成

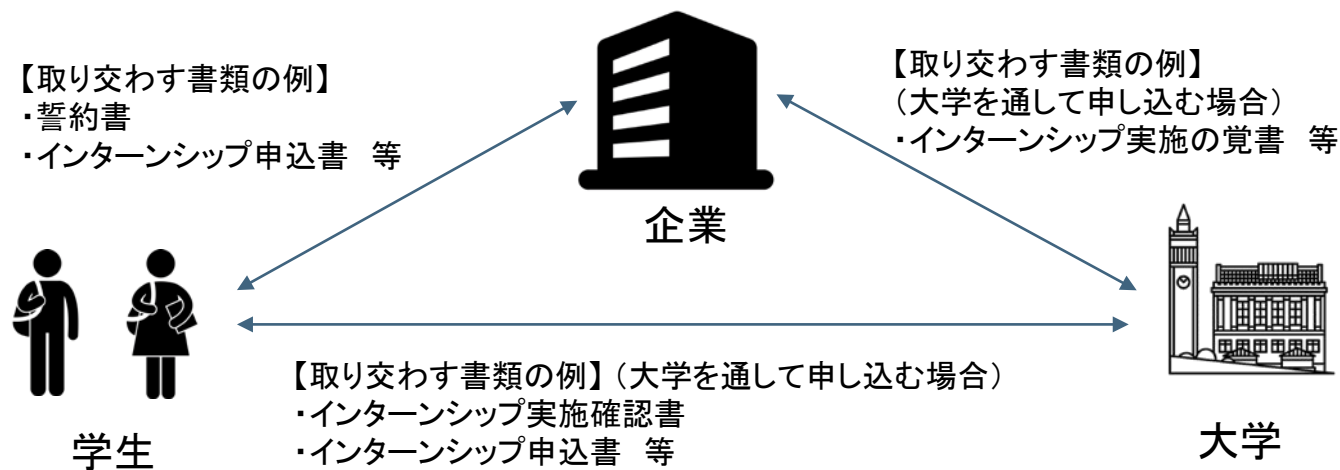
ポイント③ 学生への保険加入を案内(→p.49)

⇒ 万が一の事態に備えてのリスクヘッジ

ポイント① 必要な書面のひな型を用意

インターンシップの実施にあたって必要な書類について、事前にひな型を用意することで、手続きがスムーズに進みます。

※提出に必要な書類の種類や取り交わす順番は、関係者間で調整しましょう



事例：インターンシップ実施にあたってのひな型の提示（富山県）

インターンシップに関する覚書

(以下甲という)と (以下乙という)

は、平成29年度富山県インターンシップに関して、以下の覚書を締結する。

記

(受入条件)

1 平成29年度の受入実習学生数、実習条件は、別紙記載のとおりとする。

(事前・事後指導)

2 乙は、実習に当たって十分な事前・事後指導及び評価を行う。

(実習カリキュラム)

3 甲は、実習内容及び計画を作成し、乙を通じて学生に提示する。

(実習指導担当者)

4 甲は、実習指導担当者を選定して、実習中の指導を行う。

(同意書)

5 インターンシップに参加する学生は、実習に先立って甲に対し別途同意書を乙を通じて提出する。

(実習中止)

6 学生が同意書記載の義務を遵守しなかったとき、無断欠勤したとき、および学生の実習が甲の業務を損なう事態が発生したときは、実習指導担当者の判断によって実習を中止することができる。

(保険)

7 学生は、乙を通じて学生教育研究（インターンシップ）賠償責任保険に必ず加入する。

(その他)

8 この覚書に定めのない事項は、甲と乙の協議の上定めるものとする。

平成 年 月 日

甲 (受入企業・団体)

乙 (学 校)

富山県インターンシップ推進協議会
が作成した、手続きに必要な書面
一式をweb上で公開しています
※今後変更の可能性あり

【併せて参照したい】

「とっとりインターンシップ」ウェブサイトにおける各種書類の公表

<https://www.tottori-internship.net/>

ポイント② 学生への注意事項の伝達

学生に対して、事前に注意事項を伝達をすることで、トラブルを未然に防いだり、学生も企業も気持ちよくインターンシップに臨むことができます。

学生に伝えたい注意事項

- ✓ 日程が確定したら、学生の個人都合での変更はできない
- ✓ 単位認定条件や大学に提出が必要な書類等は、学生本人による確認を促す
- ✓ 参加予定の企業に直接コンタクトを取り、可能な限り事前に訪問するように促す
(遠方の学生については、電話で挨拶をするよう促す)
- ✓ 交通費や宿泊費等の取り決めについて、学生本人による企業への確認を促す
- ✓ インターンシップに対応した保険に加入することを促す

来週からお世話になります！！

学生

受入企業

事前に会社の様子が
分かって安心できた！
来週から頑張るぞ！

どんな学生が来るか
分かってよかった！

ポイント③ 学生への保険加入を案内

万が一に備えておくことで、インターンシップへ集中することができます。

何か起きないか不安、、、

現場の事故に巻き込まれちゃった！



工場の機械を壊しちゃった！

保険への加入は済ませていますか？

申し込んできました

大学で申し込んでもらいました



インターンシップ
推進主体



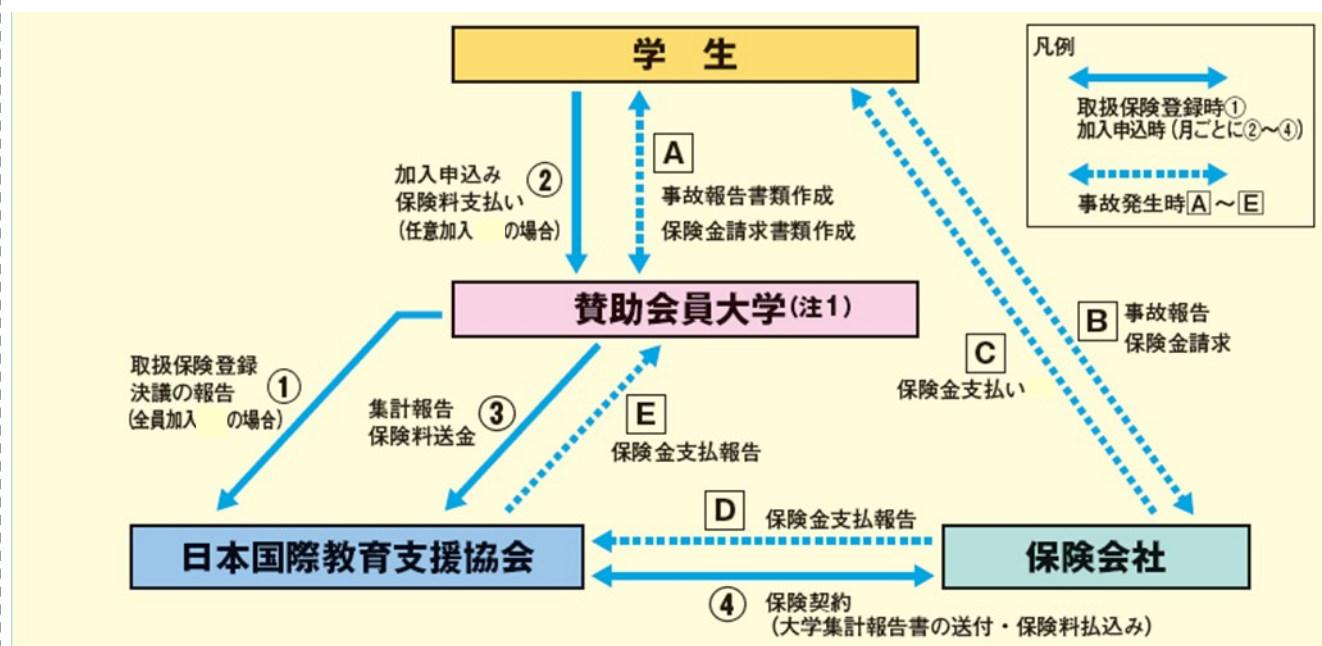
学生

学生個人(もしくは大学での取りまとめ)で保険に加入

参考：公益財団法人 日本国際教育支援協会の保険

インターンシップに関連する保険の例

- 学生教育研究災害傷害保険
- 学研災付帯賠償責任保険



出所)公益財団法人 日本国際教育支援協会資料

観点Ⅲ プログラム運営

この観点のポイント

【観点Ⅲ-1: 学生への事前研修】

- ・ インターンシップに参加する学生に対して、事前に参加目的を確認

【観点Ⅲ-2: インターンシップの実施】

- ・ インターンシッププログラムの実施、現場のフォロー

【観点Ⅲ-3: 事後研修・評価】

- ・ インターンシップ実施後の振り返りとフィードバック

観点Ⅲ-1 : 学生への事前研修

よくある課題

学生の意識や
モチベーションに
差が生じているらしい

→ポイント①

学生が企業で
失礼をしないか不安

→ポイント③

説明や思いが学生に
伝わっているのだろうか

→ポイント②

実施にあたってのポイント

ポイント① 目的意識の啓発(→p.51)

⇒ インターンシップを通じて、何を学びたいか考えさせることで、学生のモチベーションが向上

ポイント② 先輩体験談の発表(→p.52)

⇒ 年齢の離れた推進組織の職員等ではなく、等身大の体験談を伝えることで、インターンシップへの心構えを継承

ポイント③ ビジネスマナー研修の実施(→p.53)

⇒ 最低限のビジネススキル、ビジネスマナーを学生が習得

ポイント① 目的意識の啓発

学生が、インターンシップを通じて質の高い経験を得るためには、目的意識を明確にして仕事に臨むことが重要です。
ワークシート等を活用して、学生が自ら考える機会を提供しましょう。

インターンシップを控えた 学生が抱える不安(例)	ワークシート等で 学生に検討させる内容(例)
インターンシップに参加して、 何が学べるのか分からない。	インターンシップの目標設定 等
インターンシップ先の業界での 立ち位置が分からない。	企業研究・業界研究 等

事例：学生に目的意識を確認させるワークシート（和歌山大学）

■ 目的・目標シート

	1. 業務成果面	2. 自己成長・実務能力面
目的		
状態 目標		
行動 目標		

1. 業務成果

仕事で成果を
出せるように努力
を重ねる

2. 自己成長

社会人として
求められる能力と
今の自分の力量の
差を確認する

3. 専門知識・研究

大学での学びを
応用し、今後学ぶ
べき知識を知る

	3. 専門知識・研究面	4. 進路選択面
目的		
状態 目標		
行動 目標		

4. 進路選択

業界や職種を理解
し、自分の興味や
適性、仕事観等に
ついて考える

出所) 学生向けワークシート(和歌山大学)

さらに・・・

1. 学生に、受入企業が寄せる期待等を伝えることも効果的です。
2. 受入企業が「目的・目標シート」を確認し、可能な範囲でプログラムをカスタマイズできれば、教育効果の高いインターンシップの実現につながります。

ポイント② 先輩体験談の発表

先輩の体験談はリアリティがあるため、学生は自分事として捉えます。
発表者とは事前にすり合わせを行い、目的を共有しておくことが大切です。

先輩に“等身大で”体験を語ってもらうことの効果

- ✓ インターンシップに対するモチベーションが向上する
- ✓ インターンシップ生に目的や意義を再確認させる
- ✓ インターンシップの有用性を伝える
- ✓ 挫折経験も成果であることを伝える
- ✓ インターンシップの経験を、現在どのように活かしているか伝える

<セミナー会場等における一場面>

このような学び・気づきがあり、インターンシップの経験を日頃の行動に繋げている。



後輩達には、
主体的に取り
組んで欲しい。

●●県には、
こんな魅力が
あった。

実施目的の
事前すり合わせ



学生の心構えや意欲を
かき立てて、実りのある
インターンシップにしてもらいたい

こういう視点が必要なのか。
主体的にインターンシップに
取り組んでみよう。

体験談



今年度のインターンシップ生

ポイント③ ビジネスマナー研修の実施

ビジネスマナーは、円滑に仕事を進める上で重要なスキルです。
学生が安心して仕事に臨めるよう、また受入企業が早く指導できるよう、
ビジネスマナーを学生に習得させてインターンシップへ送り出しましょう。

おはようございます。●●と申します。
本日から宜しくお願いいたします！

ビジネスマナー研修で
学んだことを活かして
失礼のないようにしよう



学生

ハキハキとした、元気な学生だな。
受け入れることに不安もあったが、
やはり受け入れて良かった。



企業

こちらも誠心誠意
仕事を教えよう。

これなら、来年度も
続けよう！

マナー研修の様子



ビジネスマナーの実施項目

- ✓ 挨拶の仕方と姿勢
 - ✓ 適切な敬語の使い方
 - ✓ 報告・連絡・相談、仕事の受け方
 - ✓ 電話のかけ方、受け取り方
 - ✓ 電子メールの書き方
- 等

※ 大学が個別に実施している場合もあるので、
大学と連携しながらマナー研修を実施しましょう。

出所)和歌山県経営者協会
webサイト
([http://w-keikyo.com/
internship/doc/h28/
houkoku28_3.pdf](http://w-keikyo.com/internship/doc/h28/houkoku28_3.pdf))

観点Ⅲ-2 : インターンシップの実施

よくある課題

学生と企業が適切な
コミュニケーションを
取れているのか

→ポイント①

現場でトラブルが
起きていないか不安

→ポイント②

東京圏から来た学生に、
地方の魅力を感じて欲しい

→ポイント③

実施にあたってのポイント

ポイント① 日誌の導入(→p.55)

⇒ コミュニケーションツールや第三者の内容把握に活用

ポイント② 企業への巡回訪問(→p.56)

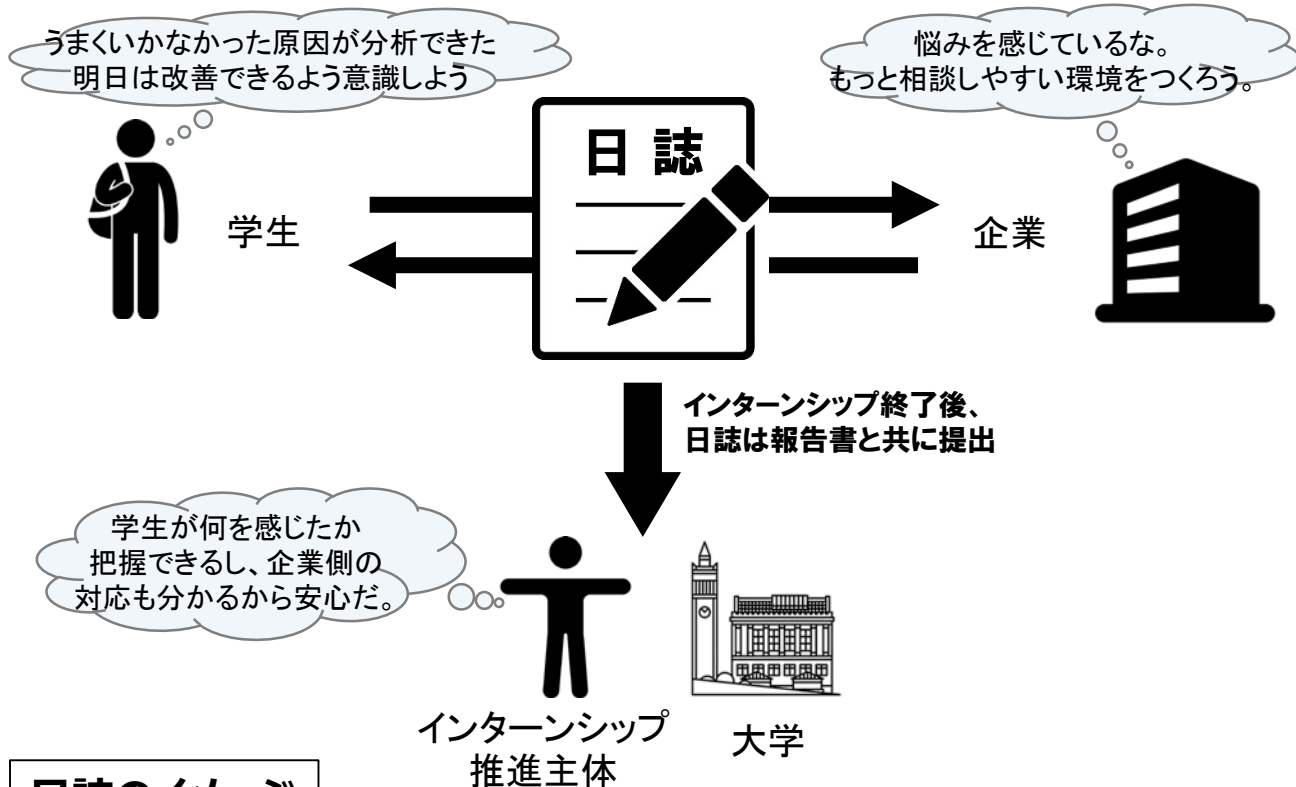
⇒ 学生と企業の様子を伺えると共に、もし何らかのトラブルの種が生じていた場合には、事前に対応策の検討が可能

ポイント③ 地方の暮らし体験を提案・実施(→p.57)

⇒ 休日を活用することで、地方の魅力を学生に発信

ポイント① 日誌の導入

日誌は、学生に経験や学びの振り返りを促す重要なツールであると同時に、企業やインターンシップ推進主体、大学等にとってはコミュニケーションツールとなります。学生にとって過度な負担にならないように配慮しつつ、日誌を導入しましょう。



日誌のイメージ

▼ インターンシップ実施企業名

▼ インターンシップ実施期間

▼ 参加目的

▼ 実施内容

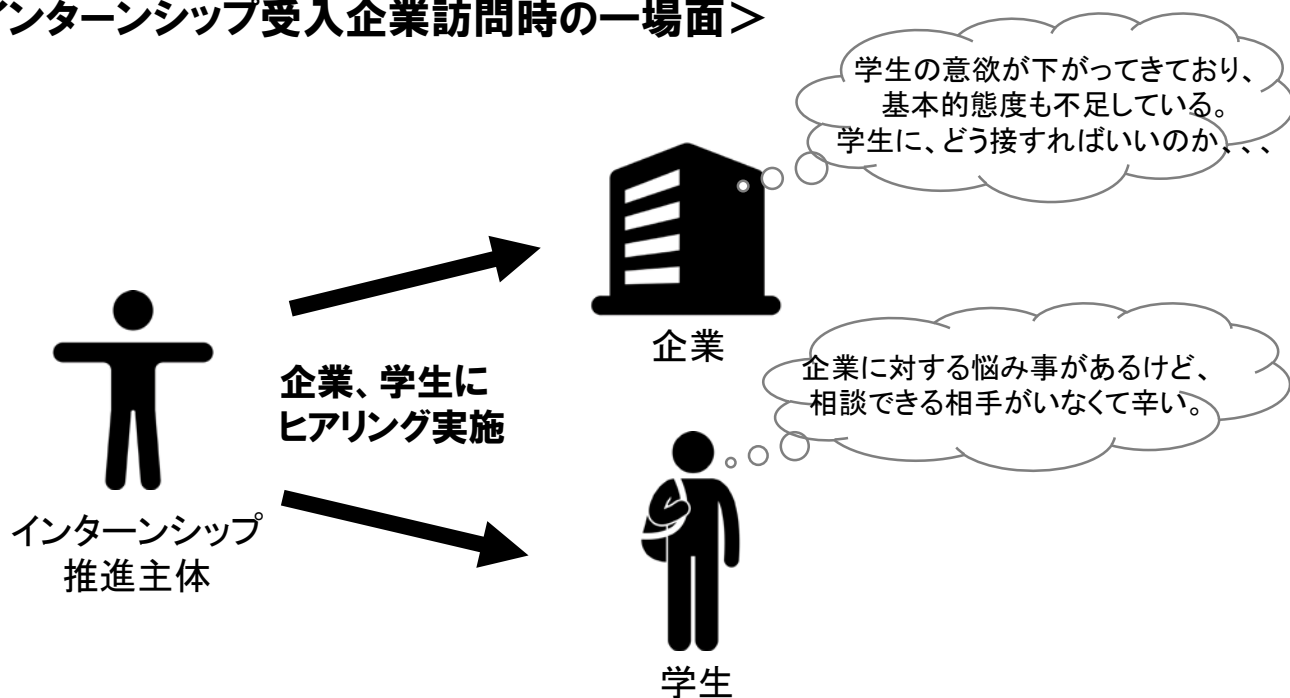
日付・時間	午前の業務	午後の業務	学び・気付き	担当者コメント
〇月〇日(□)				
〇月〇日(□)				
〇月〇日(□)				
〇月〇日(□)				
〇月〇日(□)				

大学等が学生に対して日誌の提出を義務付けている場合は、その日誌を提出してもらう等、学生側に過度な負担を与えないような配慮が必要です。

ポイント② 企業への巡回訪問

受入企業を訪問することで、日誌に記載された内容やインターンシップ経緯等について、学生と企業の双方と話すことができます。また、万が一にもトラブルの種が生じていた場合には、事前に対応策を講じることができます。

<インターンシップ受入企業訪問時の一場面>



学生へのヒアリング項目(例)

- インターンシップ全般について
 - ✓ 当初の目的の達成度
 - ✓ 考え方の変化
 - ✓ スケジュール感
- 学びや気付きについて
 - ✓ インターンシップで得た学び
 - ✓ 挫折の有無と乗り越え方
 - ✓ 今後、意識すること
- その他
 - ✓ 企業側の対応、指導に関する意見
 - ✓ 困りごと、相談ごと
 - ✓ 自治体や推進組織への要望

等

企業へのヒアリング項目(例)

- 学生の基本的態度について
 - ✓ 身だしなみの崩れ
 - ✓ 社内規則の遵守
 - ✓ 挨拶、業務態度の変化
 - ✓ 休憩時間の様子
- 取組方について
 - ✓ 実習内容に対する学生の達成度
 - ✓ 達成に向けた促進要因
 - ✓ 実習上の障害
- 企業側の対応について
 - ✓ 学生が壁に直面した際のフォロー
 - ✓ モチベーションを高める仕掛け作り
 - ✓ 学生への対応に関する困りごと

等

企業訪問が困難な場合には、電話やメール等で状況を確認しましょう。困りごとや相談がないか伺うことが、効果的であると考えられます。

ポイント③ 地方の暮らし体験を提案・実施

インターンシップだけでは、地方の魅力を十分に伝えきことは難しいでしょう。休日や就業後に地域ぐるみのイベントを提案・実施することで、仕事以外の魅力を伝えられ、その土地での暮らし方を想像させることができます。

休日の地方での暮らしは、
どんな感じなんだろうか？

週末に、隣町でお祭りがあるよ。
楽しいから、行ってみたらどう？

商工会が主催の
イベントがあるよ！
参加してみない？



学生



地域ぐるみでイベントを提案



インターンシップ
推進主体、企業 等

せっかく来たんだから、
この地方ならではの
●●体験をしてみようよ。

イベントへの参加を通じて、地方に対するイメージが変化

こういう暮らしができるんだな。
仕事内容も興味があったし、
就職も視野に入れようかな。

こんな楽しい経験ができるんだ！
もっと、このまちのことが知りたい！



学生



地域でのそば打ち体験

出所)長野県提供資料

観点Ⅲ-3 : 事後研修・評価

よくある課題

学んだことを落ち着いて
整理する時間を持ってほしい

→ポイント①

各学生の学びや気づきを
他の学生にも共有したい

→ポイント③

インターンシップの
フィードバックをしたい

→ポイント②

実施にあたってのポイント

ポイント① 報告書の作成の指導(→p.59)

⇒ インターンシップ期間中の取組を報告書としてまとめることで、客観的に学生が学びや気づきを振り返る機会を提供

ポイント② アンケート・面談の実施(→p.60)

⇒ 学生と企業に、アンケートや面談を実施することで、双方にフィードバックが行えると共に、今後のインターンシップの改善に活用

ポイント③ 成果報告会の開催(→p.61)

⇒ 体験したことを他者と共有することで、学びや気づきの内省を促し、企業の参加も広く促すことで、受入プログラムの横展開が可能

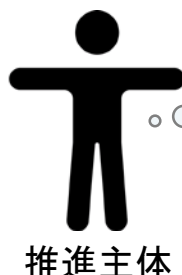
ポイント① 報告書の作成の指導

インターンシップ報告書は、受入企業毎のプログラムを確認、比較できる等、次年度以降のプログラム設計・運営に役立つ資料となります。
また企業にとっても、プログラムをブラッシュアップするきっかけとなります。

報告書を作成することで、インターンシップを客観的に振り返ることができる。



報告書



企業別の実施内容と学生が得た学びを、今後に活かすことができる。

学生が何を学んだのかわかり、来年度のインターンシッププログラムの参考になる。



インターンシップ実施報告書(例)

1. インターンシップ期間中、具体的にどのような経験をしましたか？

2. インターンシップ先の職場の方々と働いて、印象に残ったことは何ですか？

3. 困難だったことや、ハードルが高かったことは何ですか？

4. 参加前と参加後で、仕事に対する意識はどのような変化しましたか？

日誌を導入している場合は、それを活用してインターンシップ報告書を作成させる等、必要以上に学生に負担をかけないよう工夫しましょう。

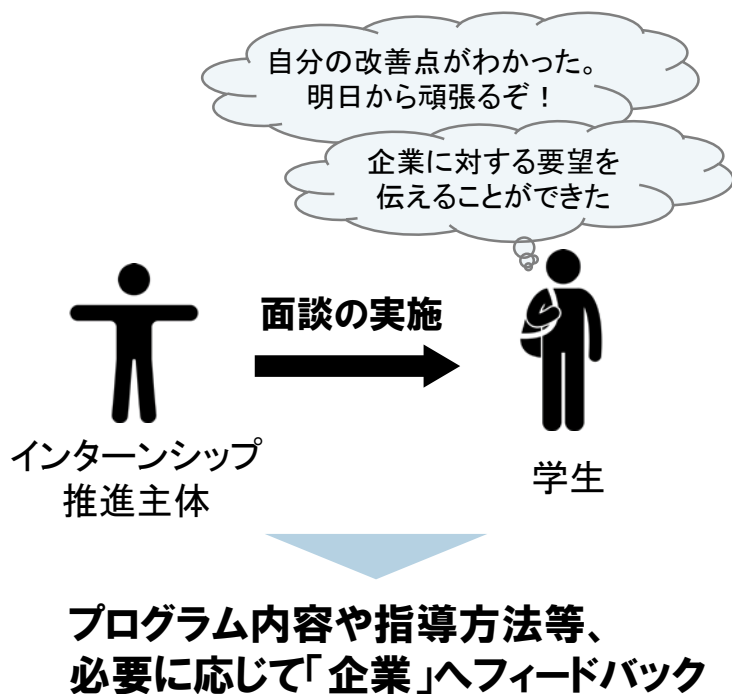
ポイント② アンケート・面談の実施

アンケートや面談を実施することで、学生・企業・推進協議会それぞれの良かった点や改善点を確認することができます。また、必要に応じてフィードバックも実施することで、学生や企業に更なる成長を促します。

学生へのアンケート・面談内容(例)

- インターンシップ全般について
 - ✓ 目的の達成度
 - ✓ 全体を通しての感想
 - ✓ 業界・職種に対する認識の変化
- 学びや気づきについて
 - ✓ インターンシップで得た学び
 - ✓ 自身の強みと課題
 - ✓ 挫折の有無と乗り越え方
 - ✓ 今後の生活にどう繋げるか
- その他
 - ✓ 企業側の対応、指導に関する意見
 - ✓ 自治体や推進組織への要望

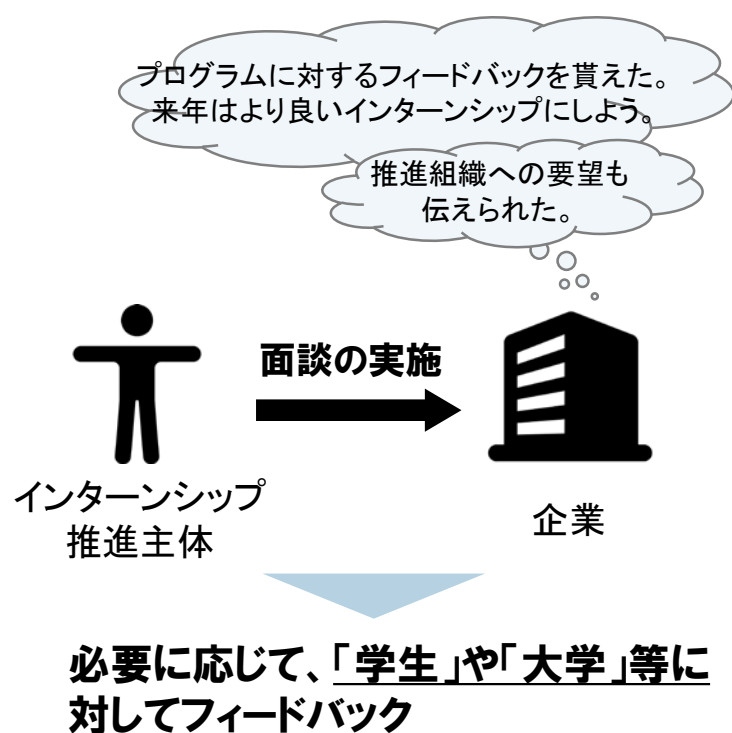
等



企業へのアンケート・面談内容(例)

- 学生の基本的態度について
 - ✓ 全体を通しての感想
 - ✓ 挨拶や業務態度の変化
- 取組方について
 - ✓ 実習内容に対する学生の達成度
- その他
 - ✓ インターンシップ実施に関する感想
 - ✓ 大学側に対する意見
 - ✓ 自治体や推進組織への要望

等



ポイント③ 成果報告会の開催

成果報告会は、各学生がプログラムから感じた学びや気づきを全体に共有する良い機会となります。また、インターンシップに参加していない学生も集めることで、次年度インターンシップへの参加意欲を高める効果もあります。

<成果報告会場における一場面>

企業Xのインターンシップでは、●●の経験をはじめ、■■にも挑戦することができました。

様々な経験を通じて、○○の重要性を学びました。



学生A

報告

学生Aの発表は刺激になったな。私も、意識して就職活動に臨もう。

インターンシップではこんな経験ができるんだ！来年度は応募しよう！



学生B



学生C



企業X



企業Y

学生Aが、○○の重要性に気付いてくれたようで良かった。

企業Xの取組は斬新だな。来年のプログラム作成時に参考とさせていただきます。

成果報告会後には懇親会等を開催し、学生と企業の交流を推進

発表内容の例

- ✓ インターンシップ先の選択理由
- ✓ 実習内容と、得られた学び・気づき
- ✓ 実習前のイメージと違ったこと
- ✓ 働くことに対する意識の変化
- ✓ 身に付いたこと、プラスになったこと
- ✓ 困難だったこと、その乗り越え方
- ✓ 今後の就職活動や学校生活で活かしたいこと

観点Ⅳ 継続的な事業運営のための体制

この観点のポイント

【観点Ⅳ-1:異なる主体との連携】

- 複数の組織による各々の得意分野を生かした連携

【観点Ⅳ-2:業務の構築・継承】

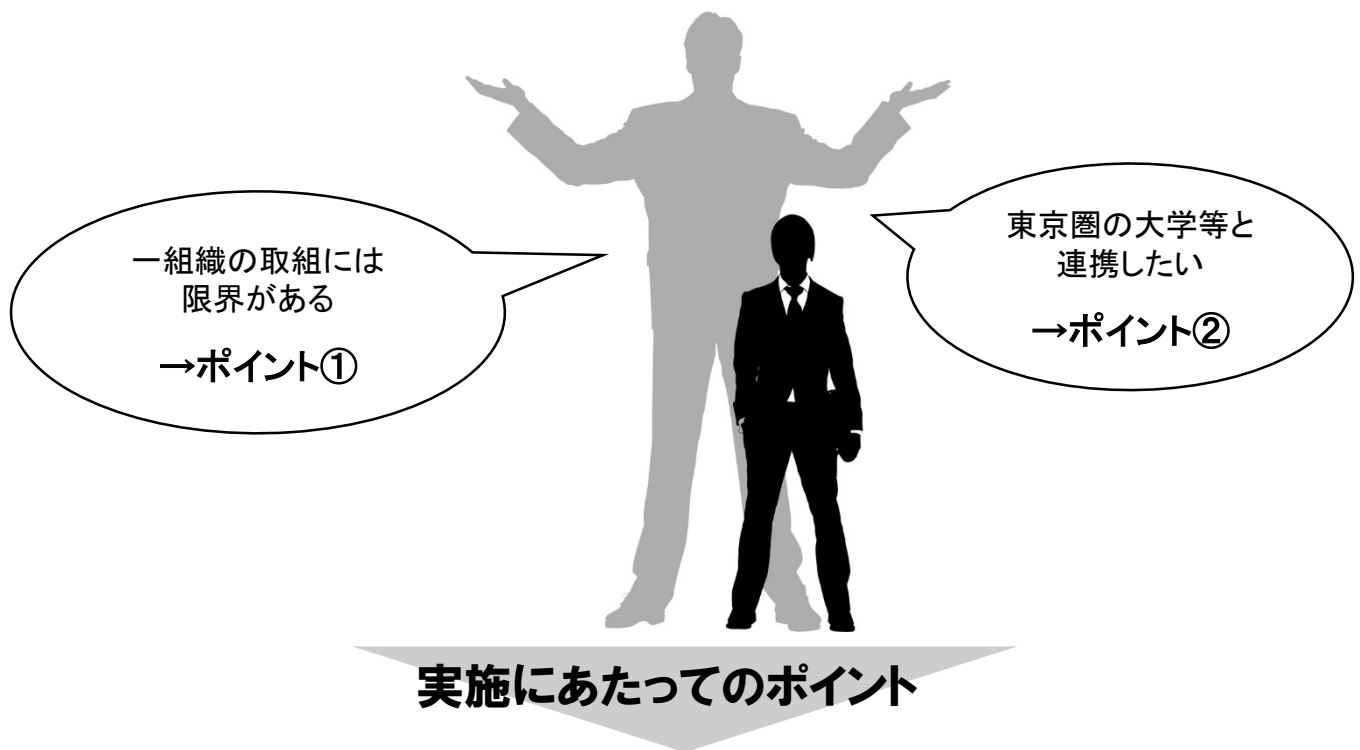
- 組織内のノウハウを可視化、中核となる人材の確保

【観点Ⅳ-3:財源の確保】

- 組織の活動を円滑に進めるために必要な財源の確保

観点Ⅳ-1 : 異なる主体との連携

よくある課題



ポイント① 足りない機能を補う連携先の選定(→p.63)

⇒ 地域ぐるみで質の高いインターンシップを実現

ポイント② 連携協力に係る重要な5つの観点(→p.64)

⇒ ポイントを押さえた連携協力でお互いにwin-winの関係を構築

ポイント① 足りない機能を補う連携先の選定

お互いの得意分野を活かすことで、地域ぐるみで、質の高いインターンシップを実施することが可能です。



インターンシップ推進主体

どのような主体と連携すれば
良いだろうか...



自治体

- 活動を推進するための広報施策等を定めることができます
- 地域内で活動する大学や経済団体等、様々な主体とのコネクションがあります



大学

- 学生との直接のコンタクトポイントがあります
- 教育的効果の高いインターンシップ運営についてノウハウを持っています



経済団体

- 地元企業とのコネクションがあります
- 企業のニーズや実態を把握しています



NPO法人

- 特定分野における専門性や人脈等があります
- 学生に関心の高い社会貢献分野でのインターンシップを紹介することもできます
- 先進的なインターンシップに取り組む法人も存在します

ポイント② 連携協力に係る重要な5つの観点

東京圏の大学等との連携協力にあたっては、以下の5つの観点を意識しましょう。

観点 1

大学を知る

- 大学の事情や連携のインセンティブ、学生へのインターン・就職指導の実態について知る

観点 2

大学と関係構築する

- 大学と連携を始めるにあたり、目的・目標を具体化すると同時に、どの自治体とどのような内容で連携するかを決める

観点 3

大学に情報提供する

- インターン情報や地域情報等、大学、学生が知りたい・使いやすい情報について、使いやすい形で提供を行う

観点 4

大学と協働する

- 情報提供を超えて、様々な活動において、より深く協働する

観点 5

学生の地元活動を支援する

- 学生が地元でインターンシップをする際に支援する

詳しくは、

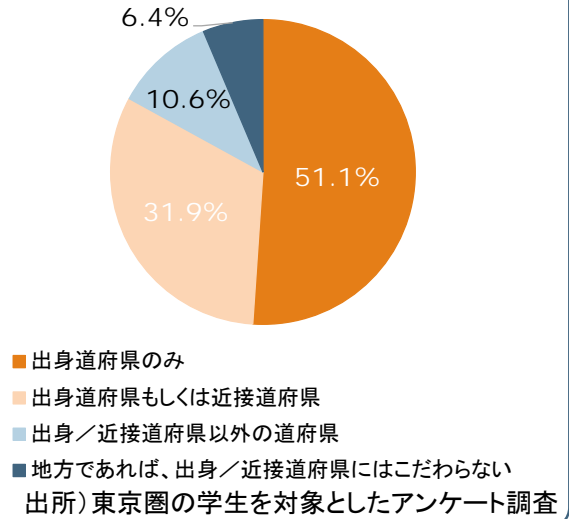
『地方創生インターンシップ推進に向けた自治体・大学等の連携事例集』
をご参照ください

コラム：地方就職に関心のある学生の多くは、出身地もしくは近隣地域への関心を寄せている

地方就職に関心を有する地方出身の学生に対して、関心のある地域を確認したところ「出身道府県のみに関心があった（ある）」が約半数、「出身道府県、もしくは近接道府県に関心があった（ある）」が約3割と、併せて8割を超えています。

地方就職に関心をもつ層は、出身地、もしくは近隣地域への関心を寄せていることがわかります。

地方就職について関心のある場所 (N=94)

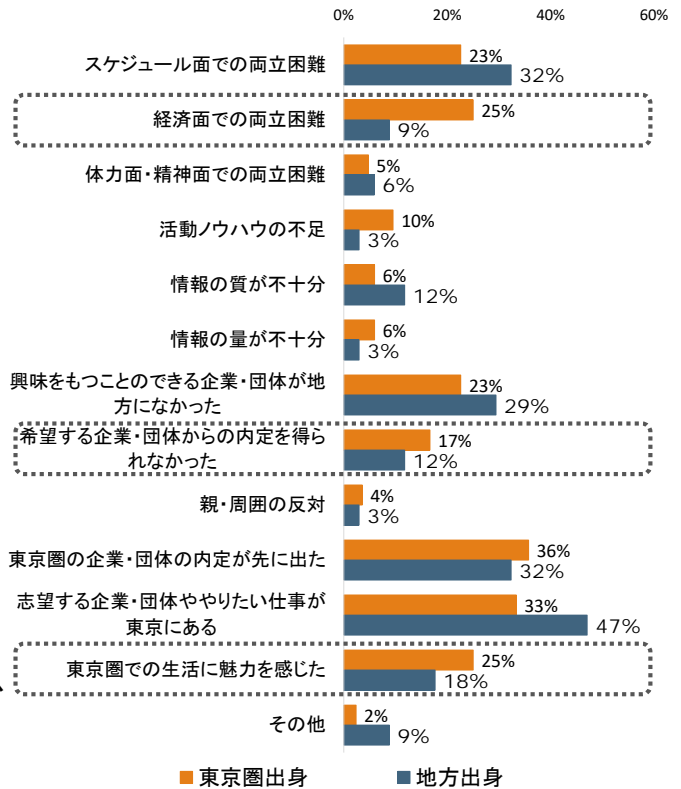


コラム：地方就職の動機付けや時間コストがネックになり、地方就職を断念する学生が多い

地方就職を視野に入れて就職活動を実施したものの、東京圏の企業等への就職を決断した理由として、東京圏出身の学生と比較して、地方出身学生は、「やりたい仕事」、「興味をもつことのできる企業・団体」等の観点で、地方就職の動機を十分に得られなかったことが挙げられています。

また、地方出身学生は、東京圏出身の学生に比べて、東京圏と地方での就職活動の両立による経済的な負担よりも、スケジュール的な負担を理由に地方就職を断念している回答傾向が高く、時間コストも地方就職へのボトルネックのひとつとなっていることが窺えます。

地方就職をしなかった理由 (N=118)



注) 東京圏出身：N=84、地方出身N=34
注) 設問は、最大三つまでの選択回答形式

観点Ⅳ-2 : 業務の構築・継承

よくある課題

どんな人が推進力になるのだろうか

→ポイント①

どうやって引き継げば良いかわからない…

→ポイント②

業務負担が大きくなっている…

→ポイント③

実施にあたってのポイント

ポイント① コーディネーターを選定(→p.67)

⇒ 関係者間の調整を円滑に進め、インターンシップ推進の原動力として活躍

ポイント② ポイントを押さえた引き継ぎ(→p.68)

⇒ トラブルを避けてスムーズな業務の引き継ぎを実現

ポイント③ 事務局の持ち回り制度を導入(→p.69)

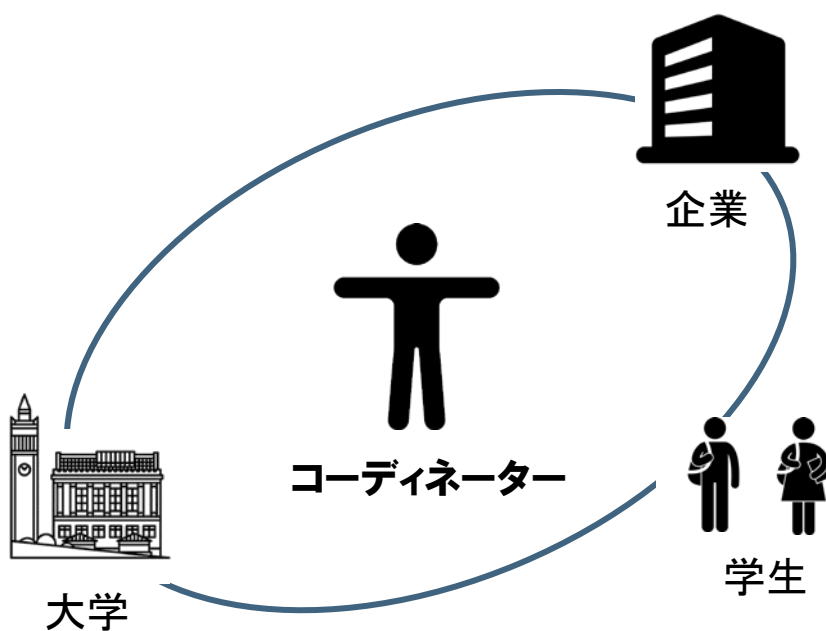
⇒ 業務を明文化したり、業務の引き継ぎによる負担軽減のきっかけづくり

ポイント① コーディネーターを選定

インターンシップ推進の原動力となるコーディネーターを配置し、受入企業の開拓からプログラムの運営まで一貫して担当することで、効果的なインターンシップを実施することが可能になります。また、窓口が明確になることで関係者間の調整がスムーズに進みます。

受入先の開拓

- 受入先となる企業を探索したり、企業とのコネクションを有する組織等と連携します
- 企業からインターンシップ実施の了解を取り付けます



プログラム設計

- プログラムを検討する企業の相談に乗ります
- 大学等に対して、学生への広報等を依頼します
- 企業と学生のマッチングを行うこともあります

プログラム運営

- インターンシップの実施中に企業を訪問して、様子を確認したりします
- 学生に向けて、事前・事後の研修を企画することもあります

コーディネーター人材の例

- ✓ 地元経済団体の職員
- ✓ 地元大学のキャリアセンター職員
- ✓ 民間企業の人事部署での従事経験者
- ✓ NPO法人等での人材関連業務従事者 …等

ポイント② ポイントを押さえた引き継ぎ

引継書を作ることで、引き継ぎが円滑に進むだけでなく、現在の業務を客観的に見直すことができます。

引き継ぎの際に伝えておきたいポイント

- ✓ インターンシップ運営のスケジュール
(いつインターンシップを実施するのか、いつ企業を募集するのか、等)
- ✓ 運営に当たって使用する書類のひな型
- ✓ 過去に起こったトラブルとその対処事例
- ✓ 関係者のコミュニケーションスタイルの特徴
(「A社のBさんはメールよりも電話でのコミュニケーションを好む」等)

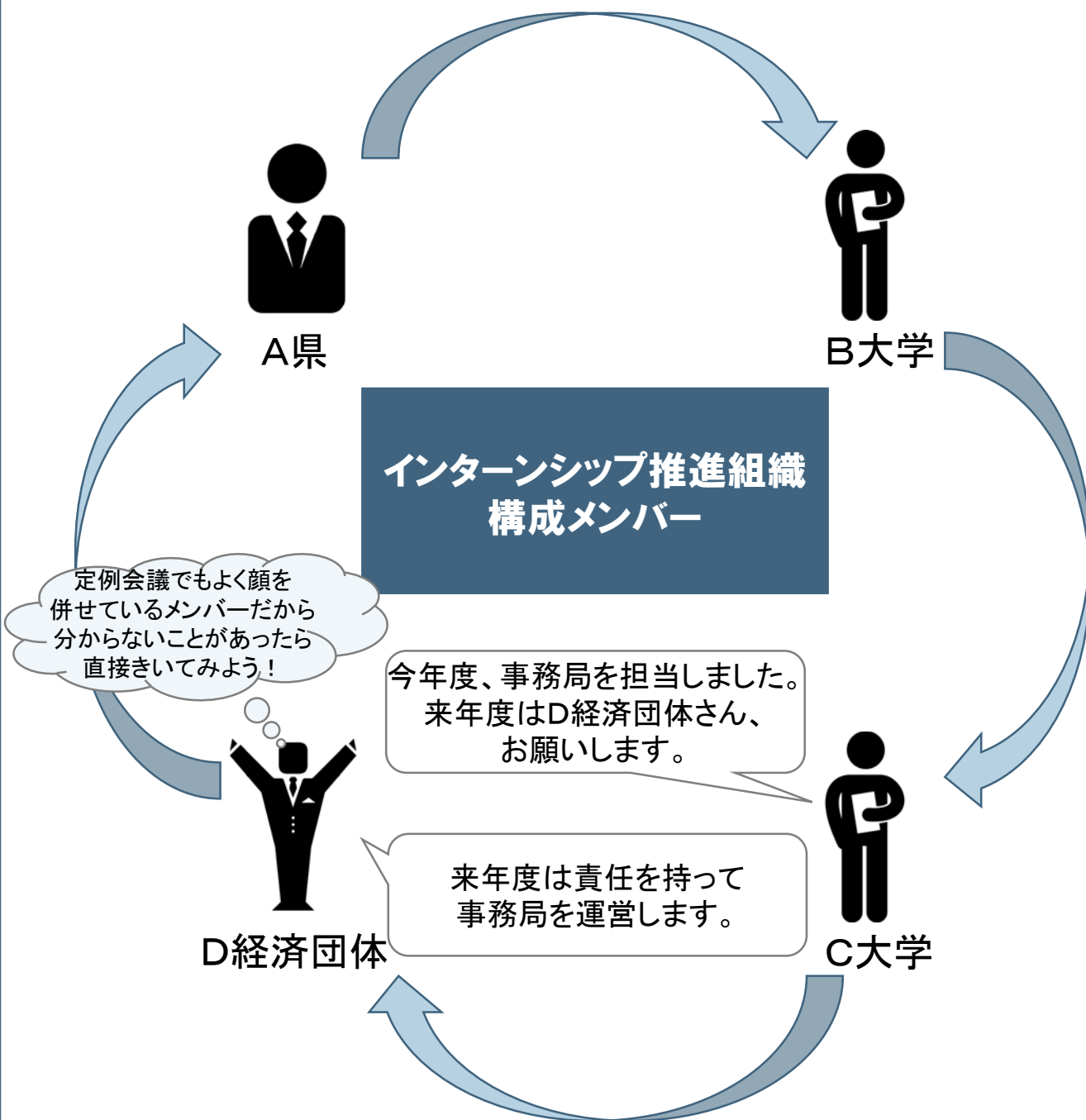
スケジュール記載の例(夏季インターンシップの場合)

月	受入先の開拓	プログラム設計	プログラム運営	組織運営
4月	<ul style="list-style-type: none"> • 地元企業への説明会 • 企業募集 			<ul style="list-style-type: none"> • 地元大学へのあいさつ・広報の依頼
5月		<ul style="list-style-type: none"> • 学生説明会 • 学生募集開始 		
6月		<ul style="list-style-type: none"> • 学生募集×切 		
7月		<ul style="list-style-type: none"> • 学生のマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> • 学生への事前研修会 	
8月			<ul style="list-style-type: none"> • インターンシップ受入期間 	
9月			<ul style="list-style-type: none"> • 企業から事後評価の収集 • 学生へのフィードバック 	
10月			<ul style="list-style-type: none"> • インターンシップ参加学生が集合しての報告会 	
11月～ 翌2月			<ul style="list-style-type: none"> • インターンシップ参加学生へのアフターフォロー 	
3月			<ul style="list-style-type: none"> • 関係者が集合しての報告会 (企業・大学からの報告) 	

ポイント③ 事務局の持ち回り制度を導入

事務局を持ち回りとすることで、業務の明文化を進めたり、関係者間でノウハウを共有したり、業務負荷の一極集中を回避することができます。

1年ごとに事務局を交代



観点Ⅳ-3 : 財源の確保

よくある課題

インターンシップ
事業に活用できる
財政支援は
ないだろうか…

→ポイント①

実施にあたってのポイント

ポイント① 地方創生推進交付金の活用(→p.71)

⇒ 地方創生推進交付金を上手に活用し、地方創生インターンシップを効果的に推進

ポイント① 地方創生推進交付金の活用

地方創生推進交付金に採択された場合、対象事業費の1/2について交付を受けることができます。

制度概要

- ① 地方版総合戦略に基づく自治体の自主的・主体的で先導的な事業を支援
- ② 具体的なKPI(重要業績評価指標)の設定とPDCA(Plan→Do→Check→Action)サイクルを備えた取組を支援
- ③ 3～5年間の計画作成が可能となっており、安定的な制度・運用を実施
- ④ 【交付対象経費の例】
コーディネーターの配置、セミナーの開催、情報発信、ICTツールの開発に係る経費 等
【交付対象外経費の例】
地方公共団体の職員の人件費、特定の個人に対する給付経費及びそれに類するもの、施設や設備の整備・備品購入自体を主目的とするもの 等

対象事業

- ①先駆性のある取組
・自立性、官民協働、地域間連携、政策間連携の要素を備えた取組
- ②先駆的・優良事例の横展開
・先駆的・優良事例の横展開を図るために行う取組

交付上限額(平成31年度)

【都道府県】先駆6.0億円 横展開2.0億円

【市区町村】先駆4.0億円 横展開1.4億円

※中枢中核都市:先駆5.0億円 横展開1.7億円

※事業費ベース。1/2の地方負担分については地方財政措置が講ぜられません。

※詳細は以下のホームページをご覧ください。

<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kouhukin/index.html>

地方創生推進交付金を活用して、インターンシップの取組をパワーアップさせている事例をご紹介します。

活用例① 秋田県地方創生インターンシップ事業

実施主体：秋田県
交付金額：37,093千円（H29）

以下の取組の経費に地方創生推進交付金を活用

- ◇ 企業のインターンシップ受入体制整備のための企業向けセミナーの開催や、ガイドブック作成。
- ◇ 大学生からのインターンシップに関する相談・申込窓口を一元的に担い、企業とのマッチングを行う「インターンシップセンター」開設。
- ◇ 大学生等に向けた情報発信ツールとして、スマートフォンアプリシステムの整備、運用や、アプリを媒介して割引サービスを提供する企業の開拓。

※ 併せて、大学生向けセミナーや企業見学会、合同就職説明会を開催。
高校生向けの取組として、セミナーの開催や就職後の職場定着支援員の配置に係る経費等に活用している。

活用例② 鳥取県の人口減少に歯止めをかける！ 転出超過解消大作戦！

実施主体：鳥取県
交付金額：29,423千円（H28）
98,031千円（H29）

以下の経費に地方創生推進交付金を活用

- ◇ 学生が県内企業に深く関わる機会を提供するため、就業体験型のインターンシップや、企業課題解決型インターンシップ実施に係るコーディネーターの配置。
- ◇ 学生とのネットワークづくりに取り組む「とっとり就活サポーター（県内企業の若手社員で構成）」や、大学との太いパイプづくりを担う「大学連携コーディネーター」の配置。
- ◇ とっとりインターンシップへの参加機運を高めるため、大規模なインターンシップフェスの開催に係る会場借上・設営。
- ◇ 相談、申込、マッチングにあたり企業・学生双方にきめ細かなフォローを行う専任のコーディネーターの配置。

※ 併せて、移住定住専門相談員の配置や、若者向けゲストハウスの整備に係る改修経費に係る情報発信経費に活用している。

※ 県内の企業、求人、就活イベント情報を提供するなど、学生目線の「とっとり就活情報サイト」、最適な時期に就活情報をメール配信で届けるなど「学生専門の情報バンク」の構築・運営に係る経費に活用。また、企業の採用力をアップするため、就活専門サイトの専門家の派遣等に係る経費に活用している。

実践編のフロー(0~Ⅳ)に沿ったモデル事例紹介

モデル事例紹介について

- ・モデル事例紹介では、導入編で提示した地方創生インターンシップの意義に照らしてモデルとなる特徴的な3事例を紹介します。
- ・具体的には、実践編で提示した4つのフローである「0. 目的・役割分担の決定」「Ⅰ. 受入先の開拓」「Ⅱ. プログラム設計」「Ⅲ. プログラム運営」「Ⅳ. 組織運営」という流れに沿って、3つのモデル事例の工夫を整理していきます。

3つのモデル事例の紹介

業務体験型インターンシップ

<とっとりインターンシップ>

鳥取県内の産・官・学が主催するインターンシップを通じて、専門的なスキルや知識、就業観を身につけることを目的としています。併せて、県内企業の魅力や自己の特性を確認できます。

平成30年夏実施分から、現行のとっとりインターンシップ(無償型)に、長期有償型のメニューが追加されました。県内企業への理解を深め、賃金の支給があり、より実践的に業務を行う長期有償型に適したメニューを開発しました。



とっとりインターンシップ参加学生のための助成があります。

- 01 交通費1/2を支援します!
- 02 宿泊費1/2を支援します!
- 03 送迎支援もあります!

鳥取県中小企業団体中央会
鳥取県インターンシップ推進協議会

課題解決型インターンシップ

<辰野町実践型インターンシップ>

1ヶ月から6ヶ月程度の間、学生は辰野町の企業でインターンシップを実施し、受入企業が実際に直面している経営課題や地域課題に取り組めます。

受入企業は「事業の発展」や「組織の活性化」等を期待して学生を受け入れ、学生は「起業家的な思考・行動特性の獲得」「問題発見・解決能力の獲得」を目的として参加しています。

辰野町では平成27年度から実践型インターンシップに取り組んでおり、毎年3~5社の企業と5~10人程度の学生が参加しています。



自分も変わる! 地域も変わる!
夏のインターンシップin信州

2017年5月14日(日) 13:30~16:30

参加費 無料
定員 20名

事業創造型インターンシップ

<富山県新規事業創造インターンシップ>

早稲田大学と富山県が結んだ協定をもとに、WASEDA-EDGE人材育成プログラムの一環として実施したインターンシップ。学生15名、企業5社が参加し、地域イノベーション創出に向けたビジネスアイデアの創出を目的として、与えられたテーマに関する受入企業の新規事業を5人1チーム(学生3名、社員2名)で立案・検証しました。

全11日のうち、フェーズⅠはワークショップを用いた新規事業に関するビジネスアイデアの立案、フェーズⅡは企業でのインターンシップ(ビジネスアイデアの検証)、フェーズⅢはビジネスアイデアの報告会というプログラム構成で実施しました。(※フェーズⅡに参加した学生は5名)



富山県イノベーションの作り方を体験できる!

2018年度
富山県新規事業創造インターンシッププログラム

15名参加
交通費・宿泊費支援

WASEDA-EDGE 富山県
早稲田大学

6月5日(火) 17:00

http://waseda-edge.jp/

<とっとりインターンシップ>

業務体験型インターンシップ

【本事例のポイント】

- ポイント①: 鳥取県内の産・官・学各機関が総掛かりで取り組んでいます。
- ポイント②: 県が長期有償型等、実践的なインターンシップ作りを推進しています。
- ポイント③: 県内大学等が事前・事後学習会を設定し、教育効果を高めています。
- ポイント④: 県内企業は学生受入れに理解があり、研究会等を開催しています。
- ポイント⑤: 専任コーディネーターが運営全般に関わり、きめ細やかな対応を行います。

0 目的・役割分担

1. 目的の設定・共有

鳥取県内の産・官・学が主催するインターンシップを通じて、**専門的なスキルや知識、就業観を身に付けるとともに、県内企業の魅力や自己の特性を理解することで、学生の地元定着につなげていくことを目的**としています。

2. 役割分担の明確化

県内大学等は学生へのインターンシップの広報、エントリーシートの受付等を担当します。インターンシップの受入企業の開拓や、県外学生からのエントリーシートの受付等の運営全般、受入企業と学生のコーディネート等は県から委託を受けた鳥取県中小企業団体中央会(中央会)が担当し、自治体は全体的な取りまとめを行っています。それぞれの役割分担をふまつつも、関係者間で情報を共有し、協働して意思決定を行うため、定期的に実務担当者による連絡会を開催しています。

I 受入先の開拓

1. 受入先の開拓

中央会は、以下の項目をメリットとして提示し、企業の理解が得られるようにしています。

- メリット1: 地域で活躍する企業として将来的な人材育成に貢献できます。
- メリット2: 従業員が人材育成を経験することで、従業員の指導力向上と職場の活性化につながります。
- メリット3: 学校を通じた社会貢献によって、地域社会での認知度や信頼感が高まります。
- メリット4: 学生が参加することで、企業の仕事や製品に興味を持ち、将来の人材と顧客の確保に繋がります。

2. 受入先へのアプローチ

中央会が専任コーディネーターを配置して、インターンシップの意義等を丁寧に説明し、理解を得られるようにしています。
インターンシップ前後に実施する**企業向け研究会では、受入れにあたっての課題やプログラム内容等の情報を受入企業間で共有すると同時に、効果的なインターンシップを実施するためにはどうすればよいかを話し合う場**となっています。

II プログラム設計

1. 受入プログラムの検討

専任コーディネーターが、受入れた学生を育成することが企業にとってもメリットにつながるよう、実習内容の作成のサポートを行っています。

2. 学生への広報・募集

県内学生への広報・受付は県内大学等が担当、県外学生からの受付は中央会へ直接申込みとなっています。平成30年度からWebエントリーシステムを導入し、参加者増と手続き合理化を図りました。中央会の専任コーディネーターが、県内出身者の在籍する主な大学を訪問し、参加を呼びかけています。インターンシップ参加の機運を高めるため、インターンシップフェスティバルを開催します。

【インターンシップフェスティバル開催】



3. 企業と学生のマッチング

最終的なマッチングには大学も参加したマッチング会議を行い、学生の要望や課題等と企業の要望を加味して決定されます。

4. 受入手続き

平成30年度から開始された**長期有償型インターンシップ**では、専任コーディネーターが雇用契約、誓約書等の締結をサポートします。

1. 学生への事前学習

実習先での課題や目標の明確化、ビジネスマナーについての事前学習を所属大学等で実施しています。県外学生に対しては、それに類するものへの参加としています。

2. インターンシップの実施

専任コーディネーターが企業と学生・大学の仲介役として、参加する学生の課題と目標を企業に共有したり、実習中の相談やアドバイス、巡回等を行います。

3. 事後学習・評価

県内学生は実習後に所属大学等が主催する**事後学習会**に参加し、実習で得られた学びや気づきの振り返りを行います。県外学生は、実習日誌ならびに振り返りの結果を中央会の専任コーディネーターへ提出します。

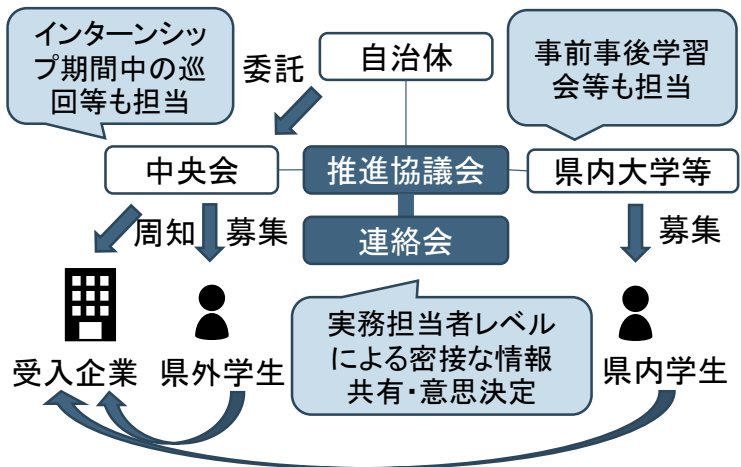
1. 異なる主体との連携

インターンシップ推進協議会を設置し、**鳥取県内の産・官・学連携による取組**を行っています。インターンシップ推進協議会では年に2回程度、会議を開催しているほか、**2週間に1度、県、中央会、県内大学等の実務担当者が集まる連絡会**を開催し、密接に情報共有をしながら意思決定を行っています。

3. 財源の確保

県の予算で、学生の交通費や宿泊費の補助を行っています。

【インターンシップ事業の体制図】



インターンシップの効果(関係者の声)

- ✓ 県外からの参加学生を増やし、県内就職を加速化をさせたいと考えています。(自治体)
- ✓ インターンシップでは会社の雰囲気を感じてもらおうことを大事にしており、実際入社につながるケースが増えました。(企業)
- ✓ インターンシップを通じて都市部の大学生と交流機会を持つことにより、就職面接の場では地元の大学生が物怖じせず発言できるようになるなど、県外からインターンシップへ参加する学生の存在は、地元の大学生にとって良い刺激になっています。(地元大学)
- ✓ 異なるバックグラウンドを持つ学生と一緒にインターンシップへ取り組めたことに意義を感じました。(学生)

<辰野町実践型インターンシップ>

課題解決型インターンシップ

【本事例のポイント】

- ポイント①: 学生にとって魅力的なインターンシップとするため、コーディネーターは志の高い経営者へ参加を呼びかけています。
- ポイント②: 中期経営計画の作成と同時にインターンシップのプログラム設計を考慮することで、企業にとってインターンシップを受け入れるメリットが分かりやすくなります。
- ポイント③: コーディネーターが学生と企業の双方からニーズを聞き出してマッチングを行います。
- ポイント④: 企業や学生の負担を軽減するため、提出書類の簡素化を図っています。
- ポイント⑤: 受入れ先や生活面で問題があればすぐに対応できるよう、関係者は日々、情報共有を行っています。

0 の 決 定 ・ 役 割 分 担

1. 目的の設定・共有

辰野町では、「実践型インターンシップ」と「体験型インターンシップ」の2種類を用意しています。それぞれのインターンシップについて、目的や学生・企業が得られるメリットを整理しており、学生や企業は自身が求めるものに応じて参加するインターンシップの種類を選ぶことができます。

2. 役割分担の明確化

辰野町では、町内で活動する一般社団法人へインターンシップのコーディネート機能を業務委託しています。一般社団法人の担当者はコーディネーターとして、受入企業の開拓、学生募集、企業と学生のマッチング等、辰野町実践型インターンシップの運営に必要な実務を全て実施しています。

I 受 入 先 の 開 拓

1. 受入先の開拓

毎年4月に企業向け説明会を実施し、受入企業を募集しています。また学生にとって魅力的なインターンシップとするため、コーディネーターが自らのネットワークを駆使して、会社経営について学び続けている志の高い経営者へ参加を呼びかけています。

ポイント①

2. 受け入れ先へのアプローチ

コーディネーターが企業へ辰野町実践型インターンシップを説明する際は、「企業側にも学生側にも負担が少ない形での取組であること」を説明します（インターン生の宿泊先の確保は自治体やコーディネーターが行うこと、自治体から活動支援金の補助があること等）。また、これまでの事例を紹介したり、企業のニーズを聞いたうえで柔軟に支援の提案をしたりしています。

ポイント②

II プ ロ グ ラ ム 設 計

1. 受入プログラムの検討

コーディネーターが経営者と面談を行い、中期経営計画書を一緒に作成します。中長期的に今後の企業活動を考えていく中で、その中の一部をインターン生に取り組んでもらえるようなプログラムを設計しています。

2. 学生への広報・募集

大学のキャリア支援担当へチラシを発送したり、大学の授業の中でインターンシップの説明をしたりして、学生へ周知を行っています。

ポイント③

3. 企業と学生のマッチング

コーディネーターは学生と電話やメールで連絡を取り、学生がどのようなことを経験、体験したいのか深掘りして、学生のニーズを具体化します。企業側の課題はプログラム設計の段階で把握しているため、双方に合う組み合わせとなるようにマッチングします。企業と学生のニーズに若干異なる点がある場合は、企業へ依頼して学生のニーズに応えられるように、プログラム内容を追加してもらうこともあります。

4. 受入手続き

企業と学生の両者の負担を減らすため、提出物は最低限の書類のみとしています。また、企業や学生から自治体へ提出しなければならない書類は、お互いの手戻りを減らすため、コーディネーターが取りまとめて不備がないか確認のうえ、自治体へ提出しています。

ポイント④

1. 学生への事前研修

参加者全員に対して、共通の事前研修や課題はありませんが、企業が作成したプロジェクト設計を予め学生へ共有し、自身の関心に応じてプロジェクトに関連することを調べてくるように促しています。

2. インターンシップの実施

学生が事業成果の創出へ集中してもらうため、インターン生からコーディネーターへの提出物は日報ではなく週報のみとしています。週報以外にもインターン生とコーディネーターが顔を合わせた際に、進捗を聞き、インターンシップ期間中はできるだけ学生が停滞している時間を作らないように留意しています。

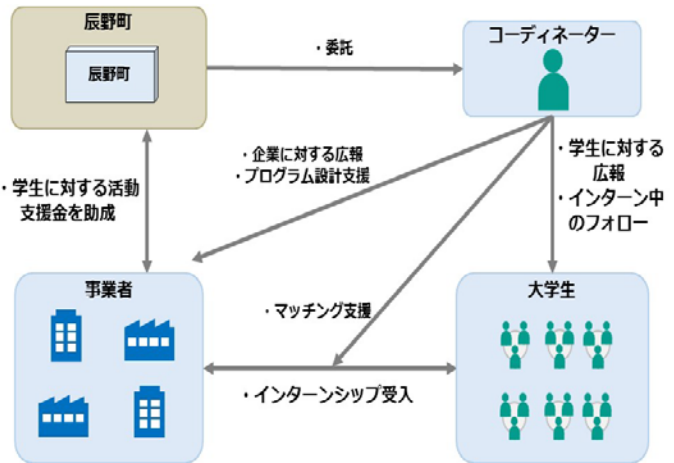
1. 異なる主体との連携

就業先や生活面で問題があればすぐに対応できるよう、コーディネーターは、企業や宿泊先の担当者と頻りに情報共有を行っています。

ポイント⑤

2. 財源の確保

インターンシップ事業は自治体からの委託事業であるため、コーディネーターの活動費は自治体が負担しています。企業は学生へ活動支援金を月額10万円支給しますが、これは後から企業が自治体へインターンシップの活動実績を申請することにより、インターン生一人あたり月額10万円が自治体から企業へ交付される仕組みです。宿泊費や交通費については、長野県からの補助も活用しています。



インターンシップの効果(関係者の声)

- ✓ インターンシップを通じて挑戦した事業内容が、企業の第二創業や売り上げ増加等へつながり、地域企業の維持・活性化に資することを期待しています。また、辰野町ではインターンシップ修了後も、若者が地域の高校生に向けたイベント等を主体的に企画して実施しています。インターンシップ修了後も継続的に地域の活動へ参加してくれる若者の存在は、地域の財産です。(自治体)
- ✓ インターン生には「これはできない」といった発想がなく、既存の社員なら「無理では」と立ち止まってしまうところにも挑戦してくれるため、経営者や従業員が学生から刺激を受けることができました。(企業)
- ✓ ビジネスを行う上での切迫感等をリアルに感じることができました。また受入先企業の方のみならず、自治体職員や宿泊先の方、コーディネーター等、多くの人に支えられ、温かい人間関係の中でインターンシップを行うことができました。(学生)

【本事例のポイント】

ポイント①: 受入企業開拓時に、企業に対して、企業の知名度向上だけでなく、多様なメリットを提示。

ポイント②: 社員研修としてもインターンシップを位置づけ。

ポイント③: インターンシップとワークショップを組み合わせた独自のプログラムを設計。

ポイント④: 役員層が参加する成果報告会を実施し、新規事業に関するアイデアを提供。

ポイント⑤: Uターン就職を所管する部署を富山県に新設し、本インターンシップをはじめ、Uターン就職の取組を一層促進する体制の構築。

0 目的・役割分担

1. 目的の設定・共有

「新規事業創造インターンシップ」は**地域イノベーションの創出を目的**としています。この目的の下で、「参加学生の起業家精神の教育・育成」「受入企業のビジネスアイデアのヒントの獲得」「富山県へのUIターン促進」と、関係主体ごとにメリットを明確に整理しています。

2. 役割分担の明確化

「新規事業創造インターンシップ」では、コーディネート機能のうち、プログラムの設計や学生募集、学生と企業とのマッチングについては早稲田大学及びインターンシップ講師が行い、受入企業の開拓や大学と受入企業との連絡調整については富山県が行っています。

I 受入先の開拓

1. 受入先の開拓

企業に対し、以下の**多様な項目をメリットとして提示**することで企業の理解を醸成することが可能となります。

ポイント①

- メリット1: 企業情報を早稲田大学生へ周知することによる知名度向上。
- メリット2: 密なコミュニケーションを通じた早稲田大学生とのネットワーク構築。
- メリット3: 学生のマインドセットの理解（学生が企業を見る観点の理解）。
- メリット4: 参加社員が新規事業創造に係る知見を得ることによる社員研修効果。
- メリット5: 参加社員がリーダーシップ・マネジメントに係る知見を得ることによる社員研修効果。
- メリット6: 社内での新規事業創造のためのヒントの獲得。

2. 受け入れ先へのアプローチ

社員もフェーズ I（ワークショップを用いた新規事業に関するビジネスアイデアの立案）に参加できるため、ビジネスアイデアの立案に関する知見を獲得できる**社員研修の場としての活用**もできます。

ポイント②

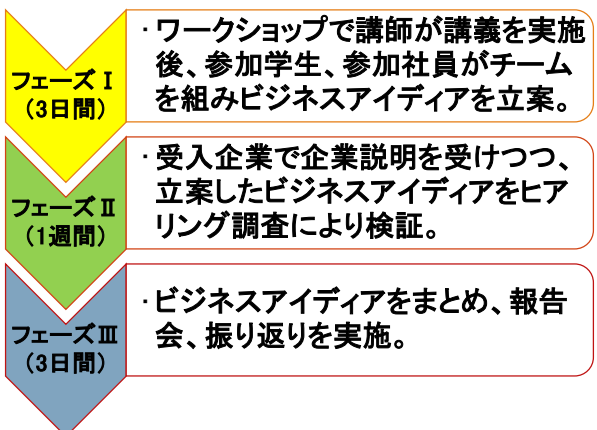
II プログラム設計

1. 受入プログラムの検討

有名講師陣が担当する**ワークショップ（フェーズ I）と企業でのインターンシップを通じたビジネスアイデアの検証（フェーズ II）を組み合わせた独自のプログラム**を設計しました。「実践型インターンシップ」として、企業の新規事業に関するビジネスアイデアを、受入企業社員と参加学生がチームとなって立案します。

ポイント③

【プログラムスケジュール】



2. 学生への広報・募集

インターンシップの目的と親和性のある早稲田大学の科目受講生を対象として、学生へ広報することで、本インターンシップに興味関心のある学生を集めることができます。

3. 企業と学生のマッチング

富山県を代表する5社を受入企業とすることで、早稲田大学生の興味を惹きつけています。

受入企業一覧		
YKK AP株式会社 (アルミ建材メーカー)	株式会社富山村田製作所 (圧電セラミックス等の製造)	北陸電力株式会社 (電力、ガス事業)
株式会社スギノマシン (工作機械製造)	株式会社CKサンエツ (黄銅棒、黄銅線メーカー)	

1. インターンシップの実施

フェーズⅠ(ワークショップを用いた新規事業に関するビジネスアイデアの立案)では、参加社員と学生が対等な立場で意見を言い合えるチーム作りのための講義も行います。フェーズⅡ(企業でのインターンシップを通じたビジネスアイデアの検証)では想定顧客にヒアリングを行い、立案したアイデアのニーズや実現可能性を検証します。

2. 事後研修・評価

フェーズⅢでは役員層が出席した報告会で新規事業に関するアイデアを発表し、フィードバックを受けることで学びを深化しました。東京に戻ってからも早稲田大学で参加学生による振り返り会を実施し、次年度のプログラム設計の気付きを得ています。

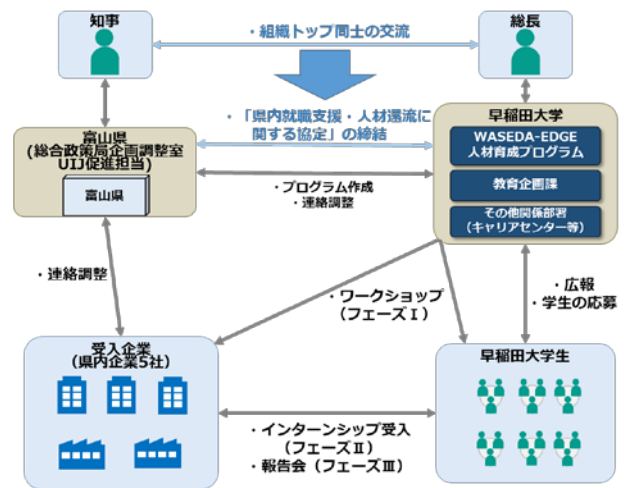
ポイント④

1. 異なる主体との連携

早稲田大学総長と富山県知事の交流がきっかけとなって就職協定を締結したことから本インターンシップが実施されています。富山県では、若者や女性を中心に大都市圏から県内への移住・定住の所管部門とUIターン就職の所管部門を一元化し、総合政策局企画調整室に移住UIターン促進担当を設置しました。新体制のもと、本インターンシップをはじめ、Uターン就職の促進を一層推進する体制を構築しています。

ポイント⑤

【インターンシップ関連図】



2. 適切な役割分担

富山県、早稲田大学、参加企業が適切な役割分担のもと、事業を推進しています。

インターンシップの効果(関係者の声)

- ✓ 富山県や県内企業の魅力を参加学生から他の学生に周知してもらい、富山県に興味関心を抱いてもらうことを期待しています。将来的なUIターンの一つの選択肢となればありがたいです。(自治体)
- ✓ 学生と協働して新規事業を考えるプロセスが大変勉強になりました。企業でも学んだ知見を広めて新規事業立ち上げに活かしていきたいです。(企業)
- ✓ 企業の方とチームを組むことで、社会人と学生の差を実感し、社会人のスピード感や振り返りを行うことの重要性を理解する良い場となりました。(学生)

事例編

石川県(p.88~89)

- ・推進組織がプログラムの一部を実施
- ・複数社で実施を分担
- ・東京圏の大学生を組織化

鳥取県(p.94~95)

- ・実施要綱により、推進組織の支援を明示
- ・オール鳥取県の実施体制を構築。実務担当者による密なコミュニケーションを実施

富山県(p.86~87)

- ・データの公表による意識啓発
- ・学生へのアンケート調査を実施

岩手県(p.82~83)

- ・自県外の大学と連携
- ・業種別モデルプログラムを作成

佐賀県(p.98~99)

- ・メールマガジンの定期配信
- ・手続の簡略化によって、自治体・大学等双方の負荷を軽減

福島県(p.84~85)

- ・使いやすい企業向けガイドブックを作成
- ・「キャリアサポーター」制度を導入
- ・1、2年生を対象に、県内企業を紹介

和歌山県(p.96)

- ・創業支援に繋がるインターンシップを導入

山梨県(p.90~91)

- ・県が首都圏の協定締結校に仲介
- ・企業の特徴をアイコンで表示

長野県(p.92~93)

- ・成人式において案内を配布
- ・地域滞在型インターンシップを実施

九州・山口(8県)(p.97)

- ・広域でのインターンシップを実施

岩手県

インターンシップ受入企業	199社(平成29年12月見込み)	
インターンシップ参加学生	369名(平成28年度実績)	
インターンシップ推進組織 ①	名称	いわてで働こう推進協議会
	設立	平成28年
	主たる構成メンバー	岩手県、地元大学、経済団体、等
インターンシップ推進組織 ②	名称	東北インターンシップ推進コミュニティ
	設立	平成26年
	主たる構成メンバー	東北地域内連携大学、岩手県内自治体、岩手県内経済産業団体、NPO等

組織運営の際によくある課題

一主体のコネクションだけでは、インターンシップ実施先の
バリエーションが限定的になる

課題を乗り越える工夫

工夫：自道府県外の大学と連携

[働きたい場所を選択]

※大学ロゴクリック



東北インターンシップ推進コミュニティの参加大学
⇒学生のキャリアの選択肢を広げるために、
東北4県の大学が「東北インターンシップ推進
コミュニティ」に加入



福島県出身の学生
(岩手県内の大学に在籍)

大学が所在する地域に
限らず他県の企業での
インターンシップが可能

プログラム設計の際によくある課題

受入先となる企業が受入プログラムを考えるために
 依拠するための資料がない。

課題を乗り越える工夫

工夫：業種別モデルプログラムを作成



製造業 (システム設計部門)

企業から提示された課題を通して、
 モノづくりマインドを体感する。

モノづくりの基礎知識や職場の現状を学生
 に伝え、実務における課題を見つ
 けることからスタート。課題にもとづき、何
 が足りないか、どうすればよいかを考えさせ
 ながら、改善案を企画しプレゼンテーショ
 ンを行うことで、学生自身の力がどのように現
 場で役立つかを認識したり、実際に製品製
 造だけが製造業ではないことを実体験を通
 して気づいてもらうことができる。

	午前	午後
1 日目	<input type="checkbox"/> オリエンテーション ・ 会社概要説明 ・ 工場案内	<input type="checkbox"/> 実習 ・ 製品、仕上げ工程実習、 金属製品の仕上げ加工、 洗浄などの最終工程作業
2 日目	<input type="checkbox"/> モノづくりの基本研修 ・ モノづくりの考え方 (安全衛生、品質、コスト、納期、改善) <input type="checkbox"/> 実習 ・ 生産管理(生産指示、納期管理、生産管理システム)	<input type="checkbox"/> オリエンテーション ・ 生産技術 (CADの概要・経験と図面作成) ・ 品質保証 (品質に対する考え方、顧客からの要求事項等)
3 日目	<input type="checkbox"/> 営業研修 ・ 商品プロモーション ・ 受注までの流れとポイント	<input type="checkbox"/> 営業同行 ・ 顧客のニーズを理解する
4 日目	<input type="checkbox"/> 課題の取り組み ・ 課題提示「業務ソフトウェアの改善企画書の制作」 ① 課題生成(やりにくい、見にくい、分かりにくい等の問題把握) ② 情報システム導入のための企画立案、要件定義 ③ 情報システム化による課題の解決	
5 日目	<input type="checkbox"/> 実習 ・ 業務ソフトウェア(在庫情報システム)の 企画提案書作成	<input type="checkbox"/> 成果発表・総括 ・ 企画提案書のプレゼンテーション ・ 企画チームの社員が評価 ・ 研修レポート作成、実習内容のまとめ



宿泊業、 サービス業 (ホテル)

準備から本番まで、舞台裏の
 スペシャリストと汗を流して
 仕事のやりがいに触れる。

実習最終日に開催されるイベントに向け、ど
 んな人たちがどのような準備をして本番を
 迎えるのか、現場を体験しながら理解を深
 める。段階を踏んで実習を重ねることで、学
 生の達成度を測りながらすすめることがで
 きる。

	午前	午後
1 日目	<input type="checkbox"/> オリエンテーション ・ 会社概要の説明 ・ 企業理念の説明 ・ ホテル内の見学	<input type="checkbox"/> 料飲サービスの基礎知識 ・ 宴会場のスタンバイ作業 (高皿、汁皿などの準備) <input type="checkbox"/> 料飲サービス実習 STEP1 ・ 食器の準備作業 (シルバーの配付作業、グラス磨き)
2 日目	<input type="checkbox"/> 料飲サービス実習 STEP2 (現場実習) ・ 接客サポート	<input type="checkbox"/> 料飲サービス実習 STEP2 ・ 宴会場のスタンバイ作業 (高皿、汁皿などの準備) <input type="checkbox"/> 料飲サービス実習 STEP3 (現場実習) ・ 接客サポート
3 日目	<input type="checkbox"/> 料飲サービス実習 STEP3 (現場実習) ・ 接客 (宴会における飲料サービス)	<input type="checkbox"/> 料飲サービス実習 STEP3 (現場実習) ・ 接客 (宴会における飲料サービス) ・ 後片付け
4 日目	<input type="checkbox"/> 料飲サービス実習 STEP3 (現場実習) ・ 接客 (宴会における飲料サービス、 サラードの飲料提供業務)	<input type="checkbox"/> 婚礼の基礎知識 ・ 婚礼営業、ブライダルアドバイザー からの婚礼について説明 ・ ブライダルイベント準備
5 日目	<input type="checkbox"/> イベント実習 ・ ブライダルイベント参加 (各務課の協賛で参加)	<input type="checkbox"/> 総括 ・ 先輩社員との意見交換 ・ 振り返りまとめ



小売業 (百貨店)

百貨店の裏側も体験しながら
 各部門の連携など組織力を実感する。
 売場実習を通じて、販売のみならず様々な職
 種に接する。百貨店における各部門の連携
 や育成体制について体験をしながら理解を
 深める。

	午前	午後
1 日目	<input type="checkbox"/> オリエンテーション ・ 全体朝礼参加 ・ 会社概要(歴史、部署等)、百貨店の仕事とは ・ 社内メールの確認	<input type="checkbox"/> 売場基礎研修 ・ 接客用語、接客の基本動作 ・ 会計補助、包装実習 ・ 配装部門発表、部門長からの説明
2 日目	<input type="checkbox"/> 売場実習(原産品売場・担当売場リーダー) ・ 開店準備、担当売場の朝礼参加 ・ 接客実習、会計補助 ・ 商品整理(商品説明)	<input type="checkbox"/> 売場実習(原産品売場・担当売場リーダー) ・ 会計補助、包装実習、POP作成 ・ 消費品の準備補充、情報、商品運搬 ※売場実習については実習状況に応じて スタップアップ
3 日目	<input type="checkbox"/> 売場実習(寝具売場・担当売場リーダー) ・ 開店準備、担当売場の朝礼参加 ・ 接客、会計補助 ・ 商品補充、配達手配の仕方、慣習作成	<input type="checkbox"/> 理事会議見学[担当 催事部] ・ 物産展見学見学 ・ 物産展チラシ発送補助
4 日目	<input type="checkbox"/> 外商について[担当 外商部] ・ 外商部の仕事の理解 ・ 訪問準備見学	<input type="checkbox"/> 催事会場準備[担当 催事部] ・ 会場準備作業補助
5 日目	<input type="checkbox"/> 催事見学 ・ 開店準備、担当売場の朝礼参加 ・ イベントで実習(呼び込み、誘導補助)	<input type="checkbox"/> まとめ ・ 店長講話(営業現場、今後の百貨店の方向性) ・ 実習の振り返り、発表

出所)「企業と学生をつなぐインターンシップガイド」
 (https://tohoku-is.jp/cms/wp-content/
 uploads/2015/10/2d37ef2e771646
 963c1073b92087c9b5.pdf)

福島県

インターンシップ受入企業	130社(平成29年12月見込み)	
インターンシップ参加学生	(平成29年度事業として新規開始)	
インターンシップ推進組織	名称	ふくしまの未来を担う地域循環型人材育成事業
	設立	平成27年
	主たる構成メンバー	福島県、地元大学・高等専門学校、経済団体、等

受入先を探す際によくある課題

地元企業に対して企業にインターンシップの意味や設計・運営の仕方を上手に伝えることが難しい

課題を乗り越える工夫

工夫：使いやすい企業向けガイドブックを作成



01 はじめに	2-3
02 インターンシップ導入の流れ	4
03 目的の設定 (step 1)	5
04 受入体制の整備 (step 2)	6
05 プログラムの作成 (step 3)	7-10
06 募集、マッチング、事前準備、オリエンテーション (step 4-5-6-7)	11
07 指導・評価 (step 8)	12
08 危機管理 (step 9)	13
09 自治体等のインターンシップに関する支援	14



目次にStepが示されていてわかりやすい

準備にどのくらいの期間がかかるのかすぐにわかる



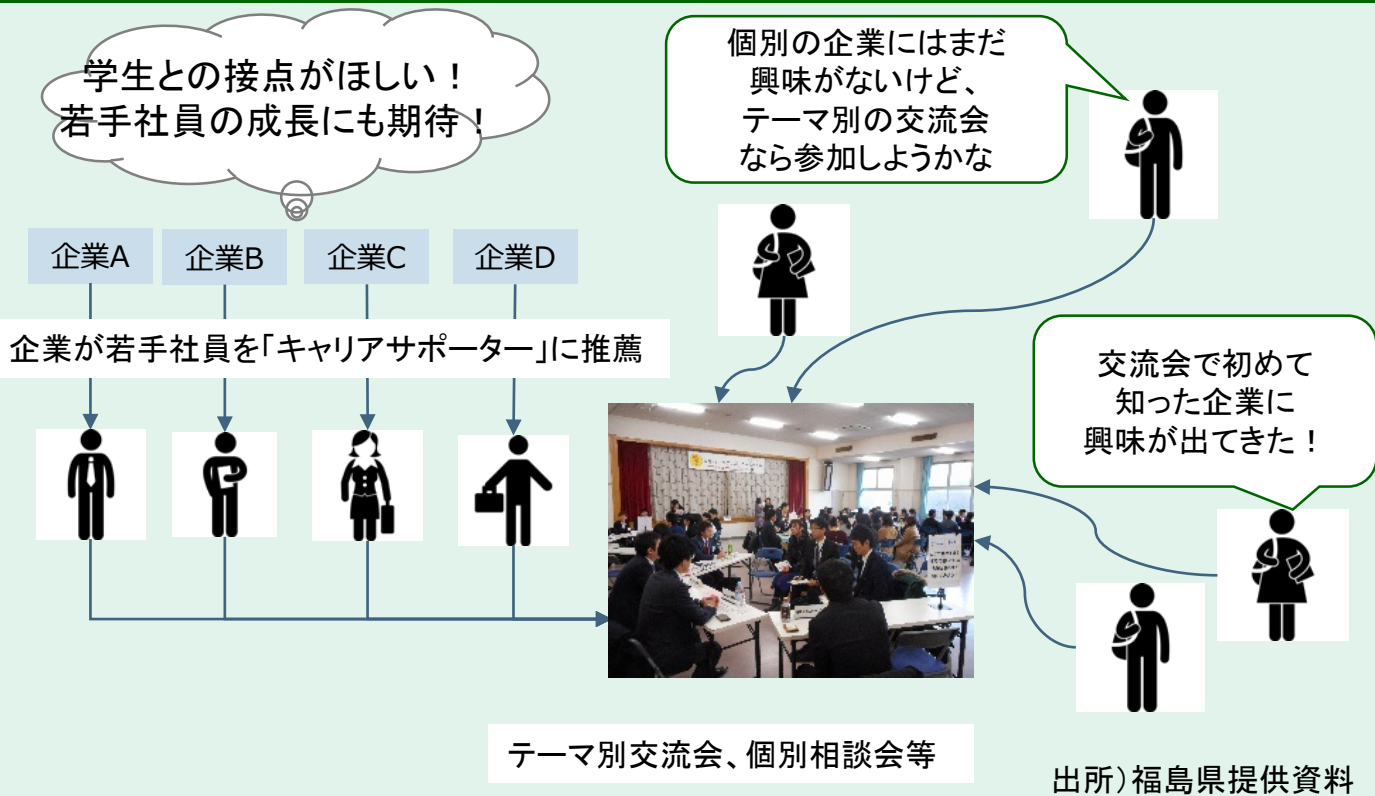
受入プログラムや学生受入時のチェック等をそのままガイドブックに書き込むことができる

学生を募集する際によくある課題

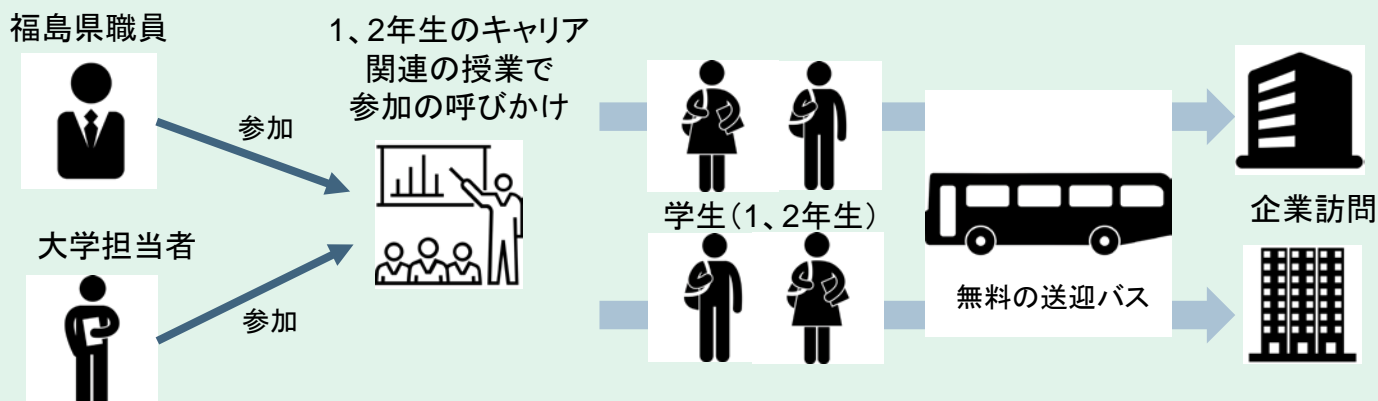
学生が地元企業に関心を持ちにくく、
地元でも有名な企業にしか関心を示さない。

課題を乗り越える工夫

工夫①：「キャリアサポーター」制度を導入



工夫②：1、2年生を対象に、県内企業を紹介



富山県

インターンシップ受入企業	350社(平成29年12月見込み)	
インターンシップ参加学生	1,163名(平成28年度実績)	
インターンシップ推進組織	名称	富山県インターンシップ推進協議会
	設立	平成12年
	主たる構成メンバー	富山県、地元大学、経済団体、等

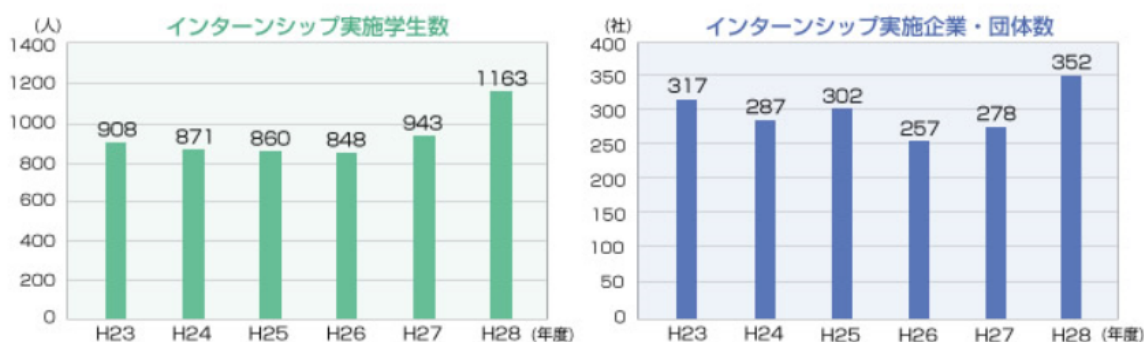
組織運営の際によくある課題

地域においてインターンシップの意識を醸成したい

課題を乗り越える工夫

工夫：データの公表による意識啓発

毎年多くの学生がインターンシップに参加しています



近年の就職難や若者の離職率増加という現状から希望者も増加し、産学の密接な連携のもと、学生の職業観・就業意識を高めるインターンシップ制度はますます重要性を増しています。

たくさんの学生が参加している。
インターンシップって大切なんだな。

こんなに多くの企業が
受けているのなら、
わが社も受入を検討しようかな。

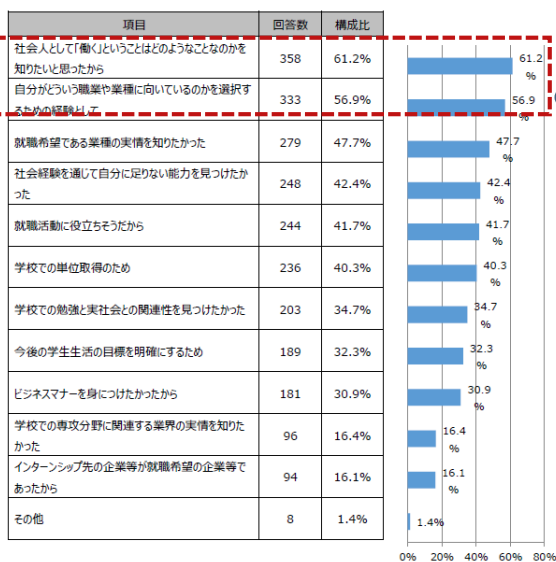
運営の際によくある課題

学生が何を求めてインターンシップに参加するかわからず、プログラムの改善ができない

課題を乗り越える工夫

工夫：学生へのアンケート調査を実施

Q1 インターンシップに参加した目的は何ですか？（複数回答可）



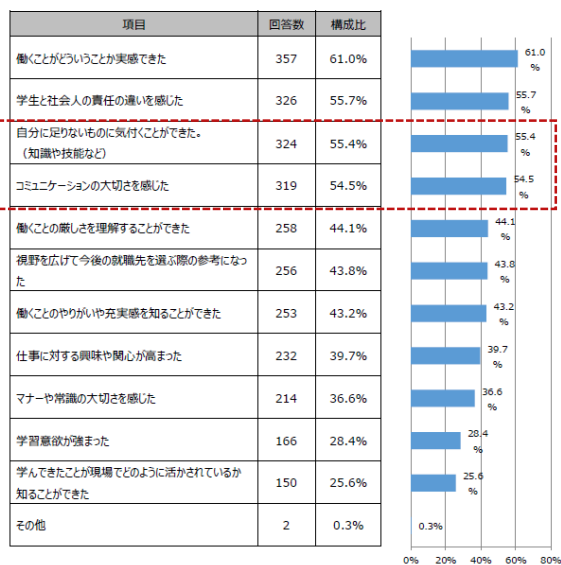
インターンシップに参加した目的

「働く」とはということか、学生は知りたがっているのだな。単なる説明会ではなく、実際の業務を体験してもらえるようなプログラムに改善してみよう。

インターンシップによって得られたこと

インターンシップを通じて自分にとって足りないものに気づいてもらえたようだ。足りない部分を、今後、どのようにして補っていくか、フォローも欠かせないな。

Q8 今回の実習であなたが得られたことは何ですか？（複数回答可）



石川県

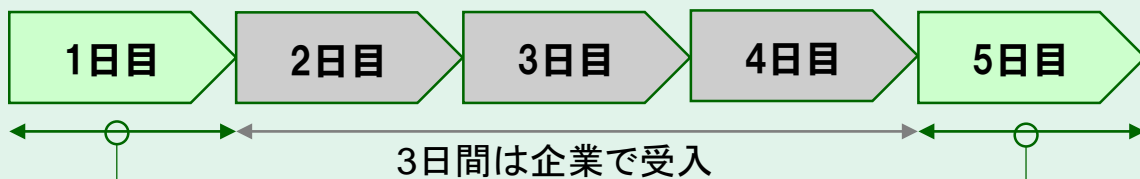
インターンシップ受入企業	350社(平成29年12月見込み)	
インターンシップ参加学生	821名(平成28年度実績)	
インターンシップ推進組織	名称	いしかわ就職・定住総合サポートセンター(ILAC)
	設立	平成28年
	主たる構成メンバー	石川県、地元市町、地元大学、経済団体、等

受入先を探す際によくある課題

企業の受け入れ体制の限界もあり、大学側が求める必要日数を満たすプログラムを1社で組むことができない

課題を乗り越える工夫

工夫①：推進組織がプログラムの一部を実施

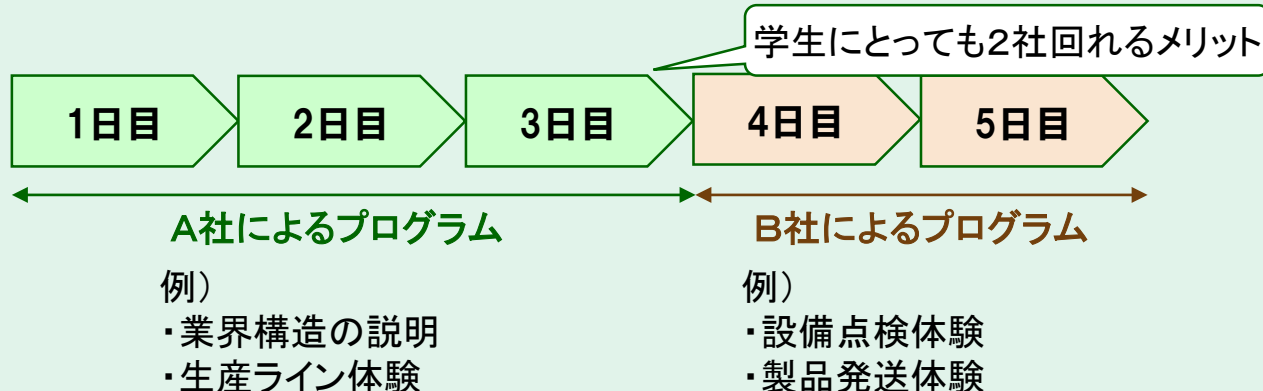


ジョブカフェ石川によるプログラム(初日:目標・課題設定、最終日:振り返り)

石川県では、インターンシップを推進する「ジョブカフェ石川」が、初日と最終日のプログラムを担当



工夫②：複数社で実施を分担



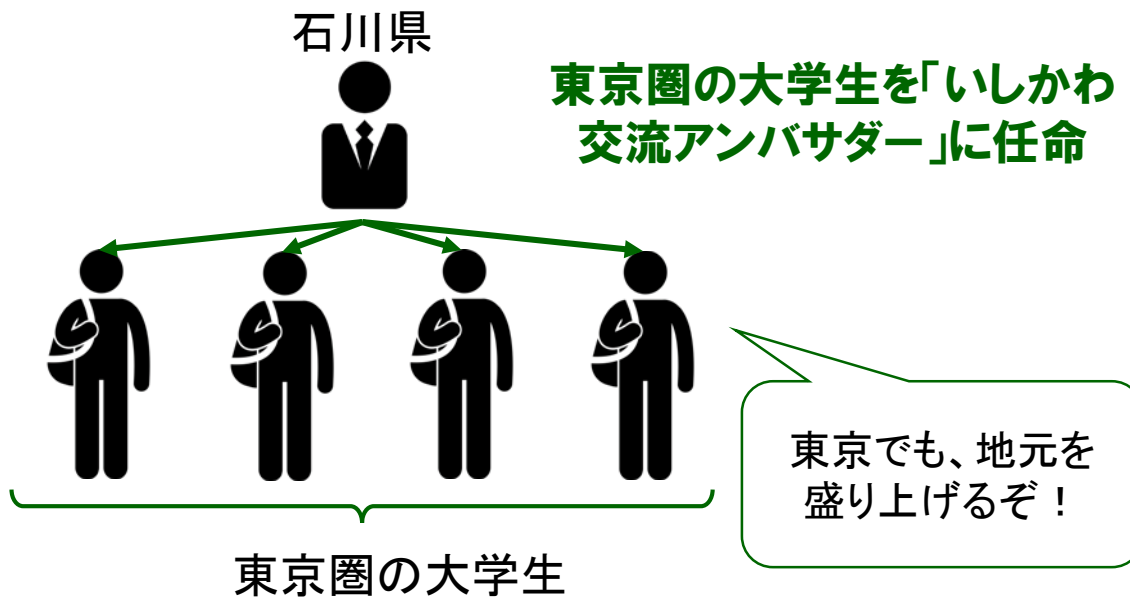
学生を募集する際によくある課題

東京圏在住の学生に対して直接アプローチすることが難しく、
大学を通して情報提供を依頼するものの、効率が悪い

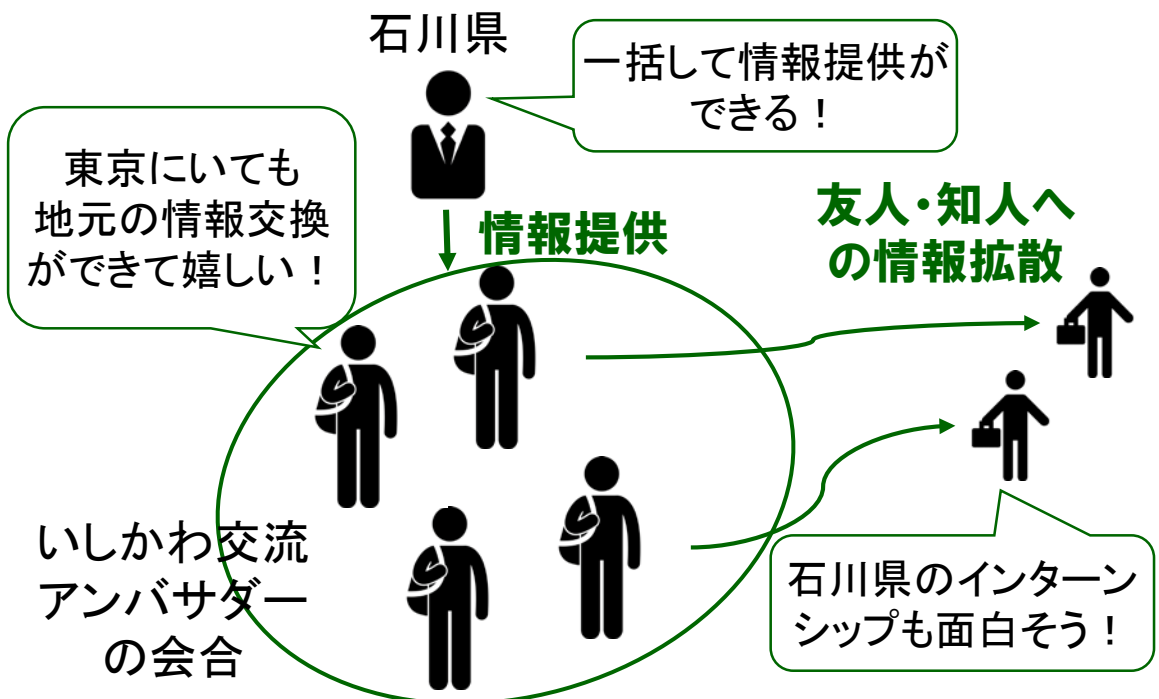
課題を乗り越える工夫

工夫：東京圏の大学生を組織化

組織への任命



情報提供・拡散



山梨県

インターンシップ受入企業	200社(平成29年12月見込み)	
インターンシップ参加学生	-	
インターンシップ推進組織	名称	インターンシップ推進協議会
	設立	平成29年
	主たる構成メンバー	山梨県、地元大学等、 地元経済団体等

学生を募集する際によくある課題

地元の大学と、東京圏の大学の連携が難しく、
東京圏の学生に地元に関心を持ってもらいにくい

課題を乗り越える工夫

工夫：県が東京圏の協定締結校に仲介する

一都三県の学生もイベントに呼びたい

山梨大学
大学担当者

自治体に相談

山梨県

一都三県の協定締結校を紹介

東京圏大学

東京圏大学

周知・広報

周知・広報

学生

学生

学生

イベントへの参加

やまなし合同 JIBUN説明会

- 大学生と地元企業がお互いを知ることとするイベント
- 2月開催なので、就職の話はしないことがルール
- 学生・企業ともに、1分間で自己プレゼンをして、学生がブースを作って企業を待つ形式を採り、学生が企業名で判断しないような仕組みを実現

学生を募集する際によくある課題

インターンシップ受入企業の情報が十分でなく、学生はどの企業のインターンシップを選べばよいのかがわからない。

課題を乗り越える工夫

工夫：企業の特徴をアイコンで表示



学生

山梨県新卒者就職応援企業ナビ
「インターンシップ受入企業検索」

企業、プログラム情報に加え、
以下の8つのアイコンが表示



インターンシップ可

企業において実習・研修的な就業体験ができるインターンシップの受入を行っている企業



職場見学可

企業を訪問して仕事の内容や職場の雰囲気を経験できる職場見学が可能な企業



駅チカ

駅から概ね1km以内にある電車通勤に便利な企業



キラリと光る「ものづくり」技術

山梨県が世界に誇る「ものづくり」の優れた技術や製品を扱う企業



ワークライフバランス推進企業

仕事と子育て・介護・地域生活等、仕事と生活の調和の推進に取り組んでいる企業



子育てサポート認定企業

子育て支援のための取組を行い、厚生労働大臣から「子育てサポート企業」の認定を受けている企業



子育て応援・男女いきいき宣言企業

子どもや子育て支援、男女がともにいきいきと働きやすい職場環境をつくることに積極的に取り組むことを宣言している企業



若者応援企業

一定の労務管理の体制が整備され、若者(35歳未満)の採用・育成に積極的で、通常の求人情報よりも詳細な企業情報・採用情報を公表する中小・中堅企業



学生

学生にとっては「どの企業が良いか」ということを選ぶための付加的で、わかりやすい情報が得られ、判断しやすくなる。

長野県

インターンシップ受入企業	80社(平成29年12月見込み)	
インターンシップ参加学生	311名(平成28年度実績)	
インターンシップ推進組織	名称	インターンシップの拡充・人材の県内定着の検討のための専門部会
	設立	平成27年
	主たる構成メンバー	長野県、地元大学、経済団体、等

学生を募集する際によくある課題

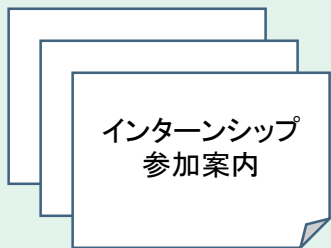
地元出身で東京圏の大学等に通っている学生へ
直接情報を周知する機会がない

課題を乗り越える工夫

工夫：成人式において案内を配布



自治体職員



成人式参加者

成人式でインターンシップの案内をもらった。そろそろキャリアについて考えなきゃいけないし、地元のインターンシップに参加してみようかな・・・

プログラム設計の際によくある課題

学生に対して、企業の魅力だけでなく、地域そのものの魅力も知ってもらいたい

課題を乗り越える工夫

工夫：地域滞在型インターンシップを実施



東京圏の学生等

7日間の「信州エクスターンシップ」に参加



地域体験



複数の企業・自治体での
インターンシップ



共通プログラム

企業訪問だけでなく、
地域体験もできる！

【実施プログラム】

- オリエンテーション
- インターンシップ(2社)
- グループワーク
- 講義
- 成果報告会 等

出所)長野県提供資料

鳥取県

インターンシップ受入企業	140社(平成29年12月見込み)	
インターンシップ参加学生	248人(平成28年度)	
インターンシップ推進組織	名称	鳥取県インターンシップ推進協議会
	設立	平成27年
	主たる構成メンバー	鳥取県、地元大学等(4校)、地元経済団体(4団体)、ふるさと鳥取県定住機構、NPO法人学生人材バンク

受入先を開拓する際によくある課題

学生受入にあたっての、受入先企業の負担感を軽減したい

課題を乗り越える工夫

工夫 : 実施要綱により、推進組織の支援を明示

とっとりインターンシップ実施要綱 (抜粋)

(実施内容)

第6条 本事業の実施内容は、次のとおりとする。

- (1) 中央会、県内高等教育機関及び県は密に連絡を取り、本事業の広報、対象学生の募集、登録及び受入先企業の開拓、登録を行う。また、本事業に伴い、学生に対しては事前・事後学習、受入先企業に対しては、本事業の研究会、ふりかえり会等を計画する。
- (2) 中央会は、所属学校等と連携して本事業の対象学生と受入先企業とのマッチングを行い、インターンシップにおける支援等を行う。

(コーディネーターの配置)

第7条 前条に係る実施内容を遂行するため、中央会にコーディネーターを配置する。

(経費負担)

第8条 中央会は、本事業実施に係る「対象学生の損害保険料及び賠償責任保険料」「交通費・宿泊費の助成」を負担するものとする。また中央会は受入先企業に対し、学生受入に伴う受入事務経費等を支払うことができる。

推進組織による受入先企業への支援やバックアップを明文化

(実習中の事故への対応)

第11条 本事業での実習中の事故については次のとおり取り扱う。

- (1) インターンシップ中(自宅又は宿泊先と受入先企業との移動時を含む。)の傷害、事故等に備えて、中央会は傷害保険及び賠償責任保険に加入する。
- (2) 対象学生が、受入先企業又は第三者に対し、傷害又は損害を与えた場合は、法令等に従って中央会の加入する保険により処理するものとし、中央会はこの範囲を超えての責任を負わない。

組織運営にあたってのよくある課題

様々な地域主体による、広がりと一体感のある取組としていきたい。

課題を乗り越える工夫

工夫 : オール鳥取県の実施体制を構築。実務担当者による密なコミュニケーションを実施

インターンシップ実施体制

高等教育機関

- ・鳥取大学
- ・公立鳥取環境大学
- ・鳥取短期大学
- ・米子工業高等専門学校

実習前後を含む、学生の教育・指導・支援

地方自治体

- ・鳥取県

政策的見地からの支援

経済団体等

- ・鳥取県商工会議所連合会
- ・鳥取県商工会連合会
- ・鳥取県中小企業団体中央会
- ・鳥取県経営者協会
- ・ふるさと鳥取県定住機構
- ・学生人材バンク

会員企業等への受入協力
企業登録への働きかけ

事業推進の
要となる産官学
の関係アクター
の参画・協働



県内企業

- ・とっとりインターンシップ受入企業

実習プログラムの作成
実習中の学生の指導・支援

実務レベルの5者連絡会

鳥取大学

公立鳥取
環境大学

鳥取短期
大学

鳥取県中
小企業団
体中央会

鳥取県

各実務担当者による
通称「5者連絡会」を、
年間を通じてほぼ
二週に一度の頻度で
実施

和歌山県

インターンシップ受入企業	106社(平成29年12月見込み)	
インターンシップ参加学生	312名(平成28年度実績)	
インターンシップ推進組織	名称	インターンシップ制度推進委員会
	設立	平成11年
	主たる構成メンバー	和歌山県、経済団体、地元大学等

プログラムを検討する際によくある課題

インターンシップは一定期間の就業体験であるため、志の高い学生をサポートできる期間が限られてしまう。

課題を乗り越える工夫

工夫：創業支援に繋がるインターンシップを導入

学生の実践力を高め、学生による創業支援に繋げることも視野に入れたプロジェクト型インターンシップを実施

県内企業
(メーカー)



<連携協定>

和歌山大学



希望学生を派遣



企業内研修カリキュラムを、インターンシップとして実施

1. 導入インターン(夏季2週間)

※ 通常のインターンシップと同様の内容

2. プロジェクト型インターン(半年間)

※ 機器の操作実習・製品に関する授業

3. フォローアップ

※ 機器を貸与等、施設を開放することで、創業を視野に入れた学生を全面サポート

創業支援インターンシップ
を単位として認定

インターンシップ期間中に、
創業に関する授業を実施

和歌山県



インターンシップ生が創業する際、
和歌山県の支援制度で全面サポート

和歌山県内で、創業人材を輩出

九州・山口(8県)

インターンシップ受入企業	-	
インターンシップ参加学生	-	
インターンシップ推進組織	名称	九州・山口UIJターン若者就職促進協議会
	設立	平成27年
	主たる構成メンバー	福岡県(事務局)、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、山口県

学生を募集する際によくある課題

東京圏の学生が地元での説明会やマッチングイベントへの参加が負担だと思い、インターンシップを断念してしまう

課題を乗り越える工夫

工夫：広域でのインターンシップを実施



東京圏の学生等

説明会やマッチングを東京で行ってくれて嬉しい!

「九州・山口共同インターンシップ」



九州・山口の企業でのインターンシップ

東京圏での報告会の実施



出所) <https://www.kyushu-yamaguchi.jp/careercafe/>

佐賀県

インターンシップ受入企業	62社（平成29年6月実績）	
インターンシップ参加学生	-	
インターンシップ推進組織	名称	佐賀県産業人材確保プロジェクト推進会議
	設立	平成23年
	主たる構成メンバー	佐賀県、地元大学、経済団体、等

学生を募集する際によくある課題

地元出身で東京圏の大学等へ進学した学生に対して
インターンシップに関心を持ってもらいにくい

課題を乗り越える工夫

工夫：メールマガジンの定期配信



自治体職員

メールマガジン
を配信



地元出身の学生

工夫のポイント

対象者の学年によって配信内容を変更

【学部1～2年生】

⇒ 佐賀県へ帰省する際に利用できる航空機のお得情報、地元の生活に関する情報 等

【学部3～4年生】

⇒ 佐賀県内の企業の情報、佐賀県内のインターンシップに関する情報 等

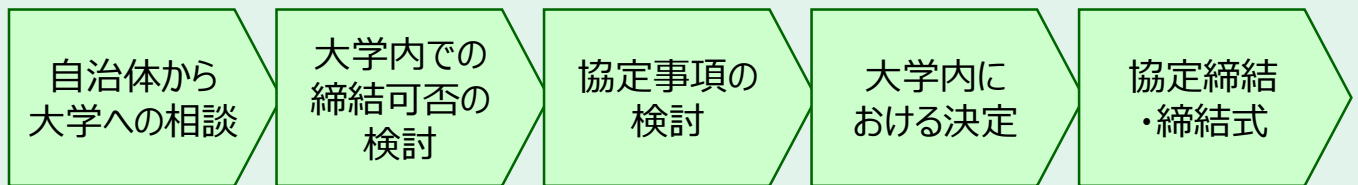
組織運営の際によくある課題

東京圏の大学と連携をしたいが、手続きの手間があり、なかなか連携してもらえない

課題を乗り越える工夫

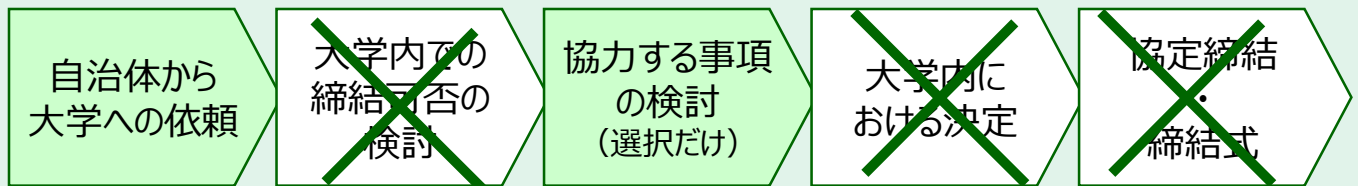
工夫： 手続きの簡略化によって、自治体・大学等
双方の負荷を軽減

一般的な協定締結プロセス



知事・学長等の参加・儀礼的色彩が強く、調整が手間

依頼文による協定プロセス



詳しくは、

『地方創生インターンシップ推進に向けた自治体・大学等の連携事例集』
をご参照ください

